＜第１部　導入編＞

第１章　はじめに
第２章　唐津市の概況
第３章　まちづくりの課題

第１章　はじめに

１－１　計画策定の背景と目的

唐津市（以降「本市」とします）は、佐賀県北西部に位置し、玄海国定公園や北山背振県立自然公園等に指定された豊かな自然環境に恵まれた都市であり、平成17年1月および平成18年1月に9つの市町村が合併して以降、その恵まれた環境と各地域の個性を活かした「響創のまちづくり（唐津市総合計画の基本理念）」を目指した取り組みを進めているところです。

唐津市都市計画マスタープラン（以降「本計画」とします）は、都市計画法第18条の2「市町村の都市計画に関する基本的な方針」に該当するまちづくり構想であり、本市の総合計画等を受けて、土地利用や道路、公園、下水道等の都市施設、街並み・景観など、まちを構成する様々な要素に関して、将来、本市が目指すべき方向性をまとめたものです。

なお、本計画は、個別の細かな計画や事業の内容そのものを直接決めるものではありませんが、今後、唐津市が定める都市計画は、本計画に即して定めることになります。

一方、これからのまちづくりにおいては、都市地域、農山村地域と分けて考えるのではなく一体的に捉えて考えていくことが非常に重要となっています。また、都市計画マスタープランの役割も、単に都市計画分野だけにとどまらず、法定都市計画以外の手法も含めた総合的なまちづくりの方針として期待されている部分も大きくなっています。

そのため、本計画は、都市計画制度による効率的な都市づくりを進めるための計画であることと同時に、都市計画制度によらないまちづくりの取り組みにおいても、本計画を1つの指針として活用できるような計画として策定しています。

１－２　計画の対象区域

都市計画マスタープランは、原則として「都市計画区域」を対象に設定するものです。しかし、「１－１　計画の背景と目的」で記載したような都市づくりを取り巻く環境の変化を踏まえ、本計画では行政区域全体を対象区域としています。

１－３　計画の期間

長期的な視野により都市計画を捉えるものとして、本計画では平成22年度からの概ね20年間を計画期間とします。

但し、本計画は、土地利用や都市計画に関する様々な情勢の変化、市民のまちづくりに関する意向の変化等を考慮しながら、適宜・適切に見直しを行うこととします。

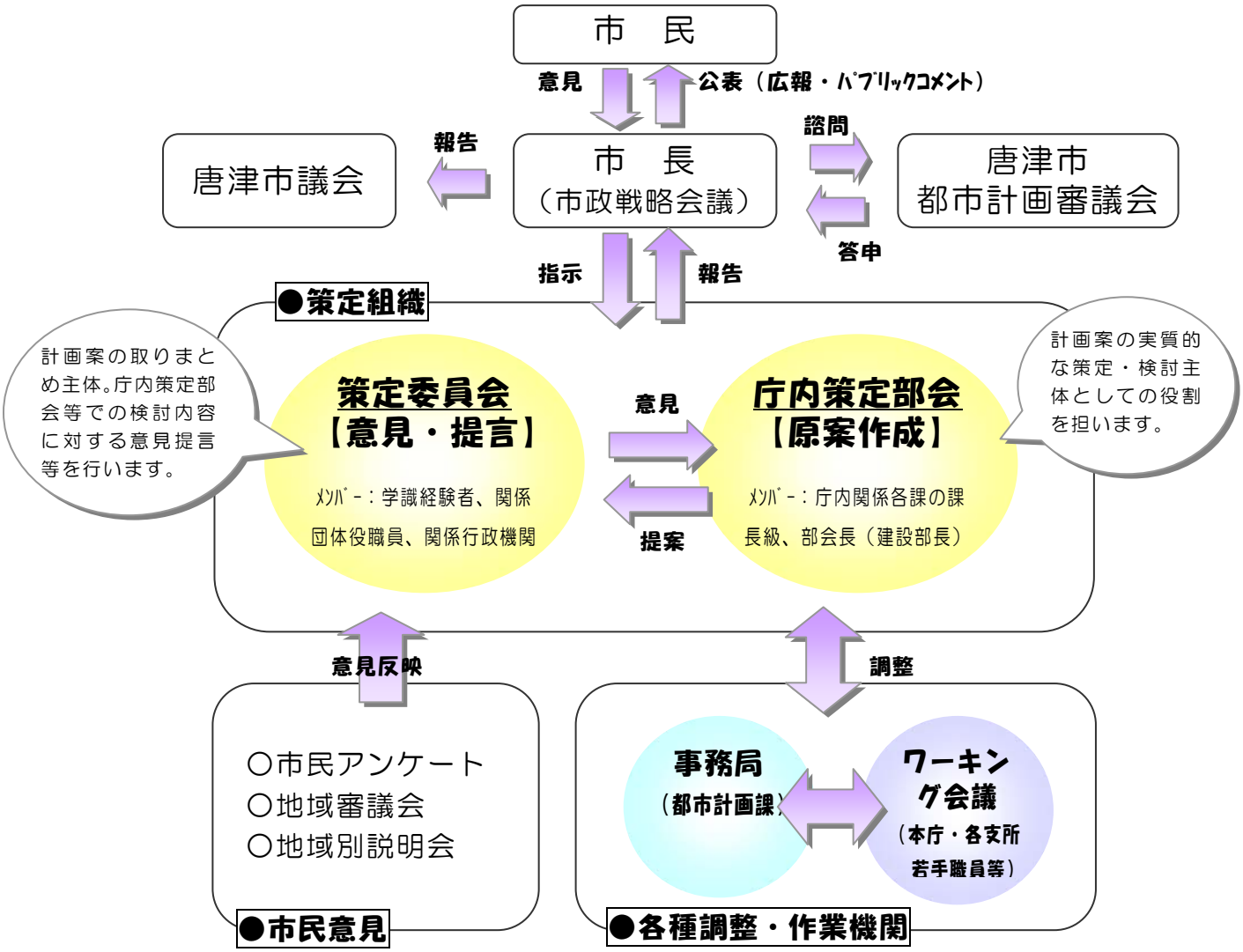
１－４　計画の構成

本計画は、本市全体のまちづくりのあり方を定める「全体構想」と、本市を５つの地域に区分し、地域毎にまちづくりのあり方を定める「地域別構想」により構成されます。

１－５　計画の策定体制

唐津市都市計画マスタープランは、策定組織として「策定委員会」と、「庁内策定部会」の２つの組織を中心に、市民意向を取り入れながら検討しました。

「策定委員会」では、最上位にあたる組織として、計画検討の舵取りの役割を担いました。**「庁内策定部会」**では、計画の実質的な部分についての計画を検討し、原案を作成しました。



第２章　唐津市の概況

２－１　広域的位置づけ

（１）　位置・地勢

◆　**美しい自然と伝統文化の残る風土**
◆　**福岡都市圏、佐賀都市圏まで約 70 分**

本市は、佐賀県の北西部に位置し、北部は玄界灘、東部は福岡県、佐賀市、西部は伊万里湾を経て長崎県、南部は多久、武雄、伊万里市とそれぞれ境を接しています。

美しく変化に富んだ自然と大陸との交流の歴史を背景に、農林水産業をはじめとする産業や伝統的な地域文化が育ち、優れた観光地としても発展してきています。

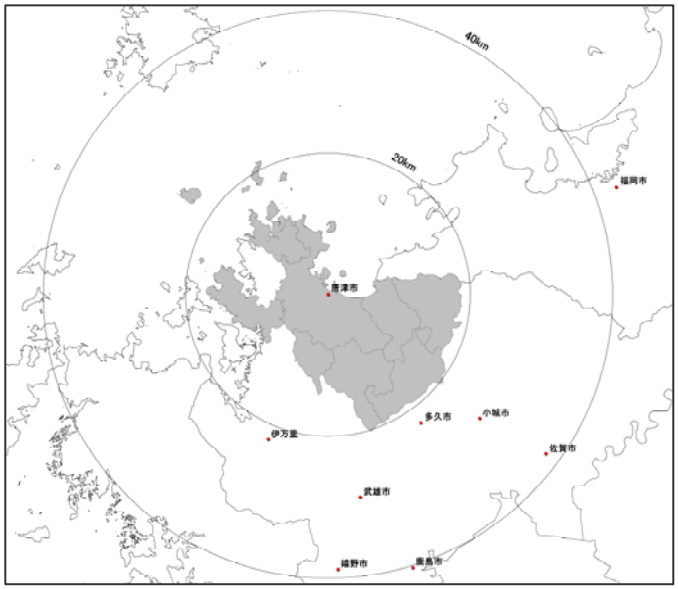


図　周辺都市までの距離

県都佐賀市までは、車では厳木多久有料道路を経て約 70 分、電車でも JR 唐津線を経て約 70 分の位置にあります。

また、福岡市中心部までは、車では二丈浜玉有料道路、西九州自動車道、福岡都市高速道路を経て約 70 分、電車では JR 筑肥線・福岡市営地下鉄を経て約 70 分と佐賀市までと同様の位置にあります。

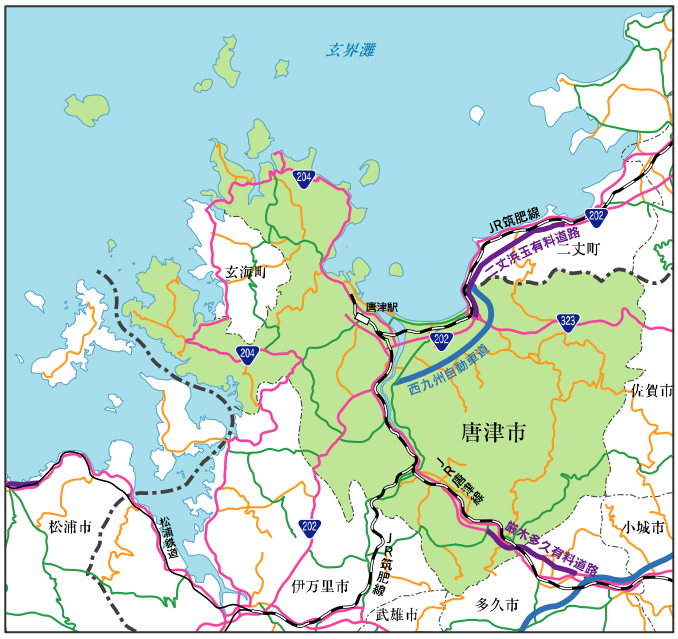


図　交通網図（唐津市総合計画より）

（２） 自然的、歴史・文化的要素

- ◆ **南東側に豊かな山地、北西側に上場台地と美しい沿岸部が広がり、その中央を松浦川が流下するダイナミックな自然地形が形成**
- ◆ **大陸との交流の歴史や生活の営みの中から息吹き始めた文化が各地に存在**

本市の自然的要素をみると、東側に山地、西側に台地が取り囲み、その中央を松浦川が流下する形状となっています。

一方で、周辺地域にも豊富な歴史・文化的資源が分布しており、各地域がメインとなりうる潜在能力を持っています。

中央は、松浦川等を軸として唐津地域と北波多、相知、厳木地域が、東側は、玉島川を軸として浜玉地域と七山地域が、西側は、玄界灘を介して呼子地域、鎮西地域、肥前地域がそれぞれ『水面』により連携しています。

表 地形条件による区分とその特徴

地形区分	特 徴
市中央を流下する松浦川、厳木川沿川	・松浦川が本市の中央を流下し、鉄道、国道 203 号などの交通軸が形成 ・本市と県都佐賀市とを結ぶ主軸としてだけでなく、市内ネットワークにおいても主軸となる重要な要素、本市の都市骨格
玉島川沿川	・玉島川が七山と浜玉を結ぶ形で流下し、交通軸（国道 323 号）も形成される重要な要素
天山・背振山系	・３つの県立自然公園からなる豊かな山地が形成 ・その懐には、八幡岳の急傾斜地に広がる蕨野の棚田など、自然環境と共生しながら生活を営む「里」が存在 ・天山の麓には洪水調整、利水を目的に建設された厳木ダムが存在 ・天山から厳木中心部までは扇状地となっており、その麓に集落が形成
上場台地	・松浦川からの揚水を活用した「上場土地改良事業」によって形成された本市の優良な農業生産拠点
北西部沿岸部	・玄海国定公園に指定された美しく豊かな自然地形（七ツ釜、波戸岬、いろは島等） ・半島という地形を利用した風力発電、海岸線に向かって広がる大浦の棚田→自然環境を利用した環境共生型社会へ向けた取り組み
市街地が形成されている平野部	・唐津湾に突き出した唐津城を中心に、城下町が形成 ・初代藩主寺沢志摩守広高により、松浦川、玉島川の河川改修、新田開発、虹の松原造成など、現在の都市基盤となる大規模な土木工事が実施 ・松浦川の右岸は、虹の松原、鏡山といった本市を代表する景勝地が存在
玄界灘、唐津湾等の北西部に広がる海域	・懐の深い唐津湾には、本市の骨格をなす松浦川、玉島川が流下 ・湾内には宝当神社のある高島、自然公園の鳥島、万葉集にも詠われる神集島が存在 ・玄界灘には、向島、馬渡島、松島、加唐島、小川島が存在し、古来より大陸との貿易等における重要な拠点

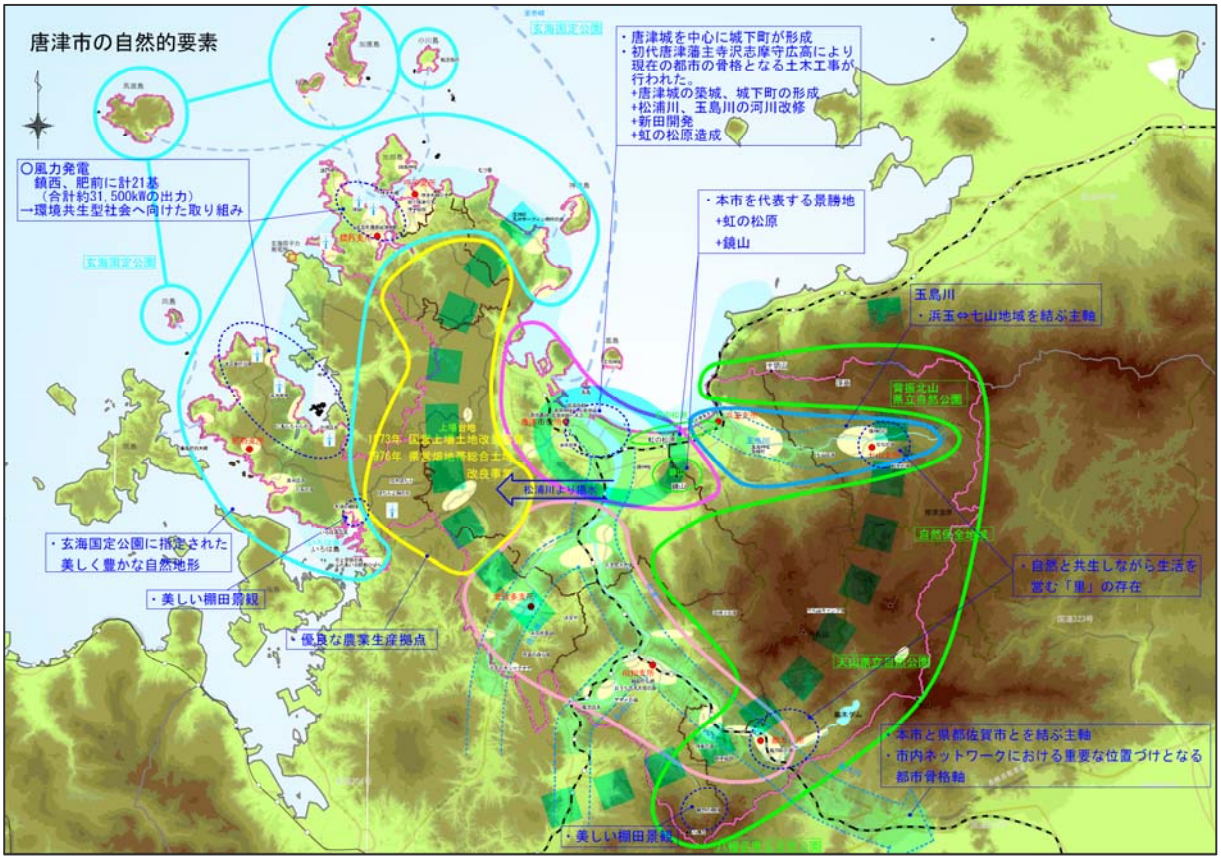


図　唐津市の自然的要素

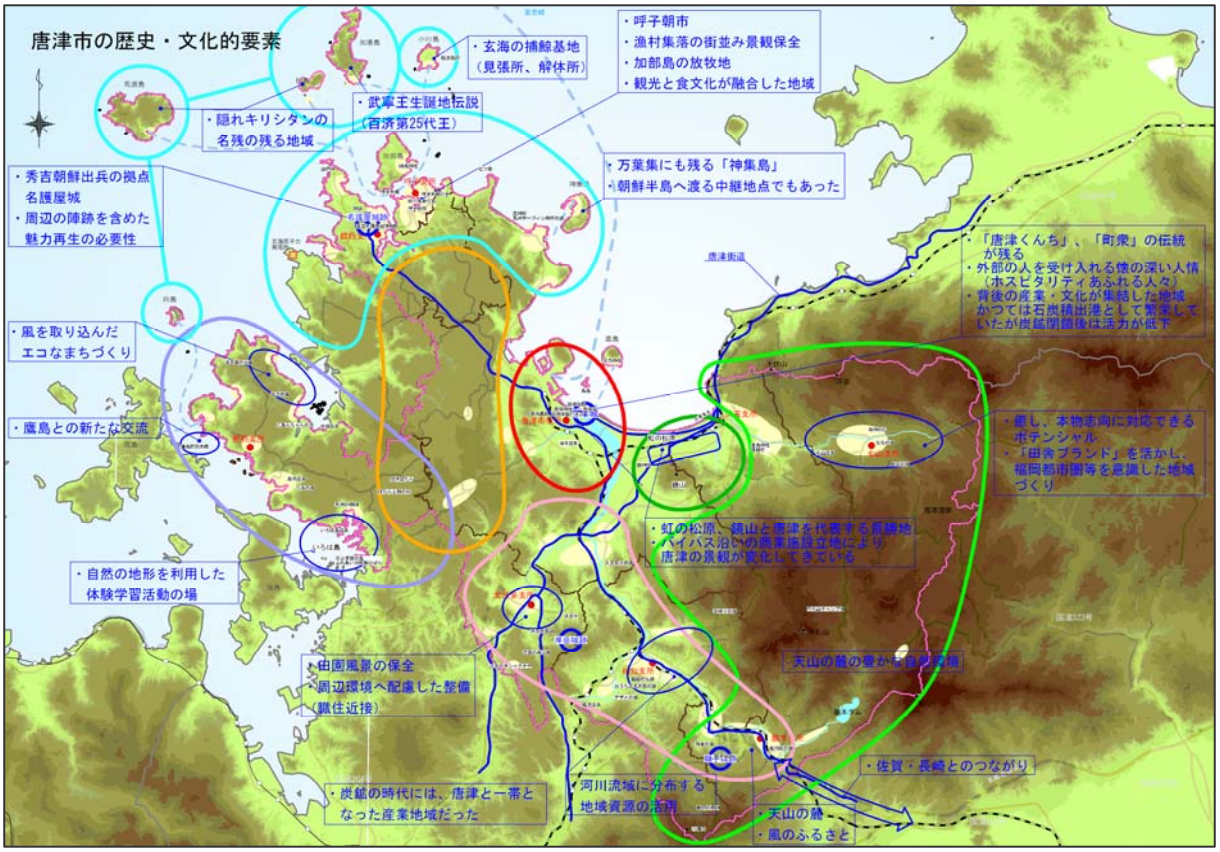


図　唐津市の歴史・文化的要素

（３） 歴史的変遷と特徴

◆ 西側：玄界灘に面し、大陸に近いことから多彩な文化が育まれてきた地域
◆ 東側：自然豊かな山地、自然環境と人々との生活の共生の場となる地域

本市の歴史・文化的特徴について、歴史的変遷と照らし合わせて整理します。

表 歴史的変遷と特徴

○古代（～平安）
・朝鮮半島に近いことから、古来より大陸との貿易が盛んに行われていた。（海を媒体とした海外との交流の歴史） ・大陸との貿易の際には、離島は中継地点としての重要な役割があった。 ・百済第 25 代王（武寧王）生誕地の伝説が残っている。（加唐島） ・大陸との海上交通の中継拠点であった神集島では、遣新羅使一行が詠んだ歌が万葉集に七首残っている。 ・佐用姫伝説の残る「鏡山」は、唐津の代表的な景勝地であり、風致地区に指定されている。
○中世（鎌倉～室町～戦国時代）
・広い平野がなく耕作地に恵まれないことから、「松浦党」と呼ばれる武士団が朝鮮半島や中国沿岸に進出し、交易や漁業を行った。交易を禁止されていたときには海賊行為を行うこともあり「倭寇」と恐れられていた。 ・唐津を中心とする「上松浦党」、平戸を中心とする「下松浦党」の東西に分かれていた。 ・その中でも「上松浦党」では、「波多氏」、「鶴田氏」、「石志氏」、「佐志氏」の勢力が大きかった。 ・鏡・浜玉・七山・二丈町一帯は「草野氏」が支配していた。 ・波多氏、朝鮮と貿易（この頃には朝鮮半島から陶工が移住していたといわれている。）
○近世（安土桃山、江戸）
1590　秀吉天下統一　→朝鮮出兵命令　→名護屋城築城開始 秀吉朝鮮出兵の拠点となった名護屋城および周辺の陣跡は、歴史的価値のある資源 1593　岸岳城主　波多三河守親→朝鮮出兵の後、秀吉より筑波へ配流される。 1594　初代唐津藩 藩主寺沢志摩守広高が入部（波多領、草野領の領主となる） （合併後の唐津市の市域は、元々唐津藩として一体の地域であった） ◆唐津城の築城 ◆城下町の形成 ◆松浦川、玉島川等領内の河川改修 ◆新田開発 ◆虹の松原の造成（日本三大松原のひとつで特別名勝に指定されている） ・キリスト教弾圧→隠れキリシタン（松島、馬渡島、加唐島などの離島） 1771　虹の松原一揆（冨田才治）
○近代（明治時代～昭和）
1888（明治 21 年）　唐津港開港（石炭積出港） 1896（明治 29 年）　唐津港貿易港に昇格 1899（明治 32 年）　満島馬車鉄道（満島～西唐津間開通） 1903（明治 36 年）　唐津線全線開通（石炭の運搬） 1935（昭和 10 年）　筑肥線全線開通

○近代（明治時代～昭和）

・昭和 30 年頃まで、石炭の積出港として、松浦川を軸に、北波多、相知、厳木との繋がりも強く、地域の産業の拠点として繁栄していた。最盛期の明治末から大正にかけての時期は、唐津の町はモダンな町として福岡方面からも買物に訪れる人もいた。
・辰野金吾、曾根達蔵、村野藤吾らの著名な建築家も輩出している。
・捕鯨基地（小川島）
・炭鉱閉鎖後は、石炭産業という基幹産業に代わる新たな産業が確立しなかったため、まちの活力も低下していき、次第に中心性を失っていった。

○現代（平成～）

・「唐津くんち」などのお祭りに「町衆」の伝統が残っている。（唐津）
・東部の山地一帯は、癒しや本物志向などの時代の要請に対応できる、自然とふれ合える地域として、田舎ブランドを活かし、福岡都市圏や佐賀都市圏からの来訪者を意識した地域づくりが行われている。（おいでな菜園、鳴神の庄、ワーキングホリデイなど）（七山）
・上場台地は地形上の特性から大きな河川もなく、食物が育ちにくい土壌であったが、農地改良により、市を代表する農業生産拠点となっている。
・松浦川からの揚水による農地改良（上場土地改良事業）、風力発電など、環境共生型社会へ向けた取り組みが行われている。（上場台地等）
・近年、国道 202 号沿道の商業施設の立地等により、唐津本来の美しい自然景観が変化してきている。（浜玉）
・いろは島周辺には、「大浦の棚田」、「花と冒険の島」、「ふれあい自然塾」などの自然地形を利用した自然体験ができるポイントが多数存在している。（肥前）
・北部は、全国的にも有名な「呼子のイカ」、「呼子朝市」をはじめとした観光と食文化が融合した地域である。（呼子、鎮西）
・鷹島肥前大橋の完成により、鷹島（長崎県）との新たな交流が期待されている。

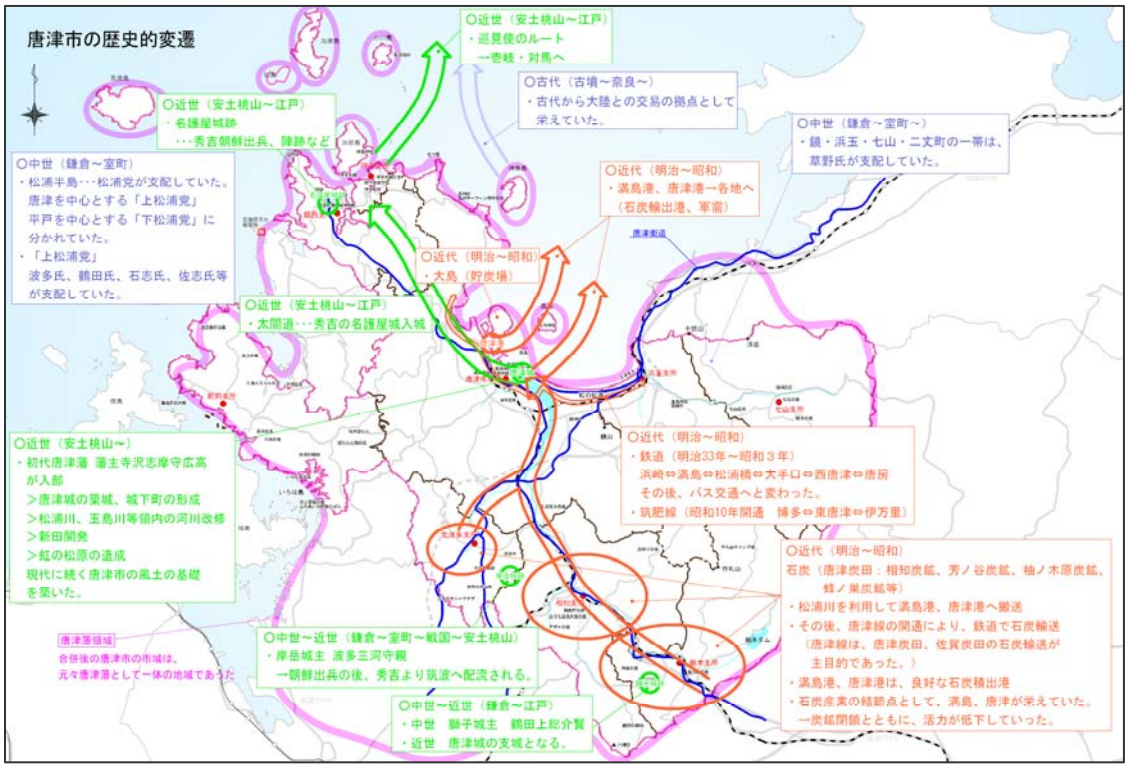
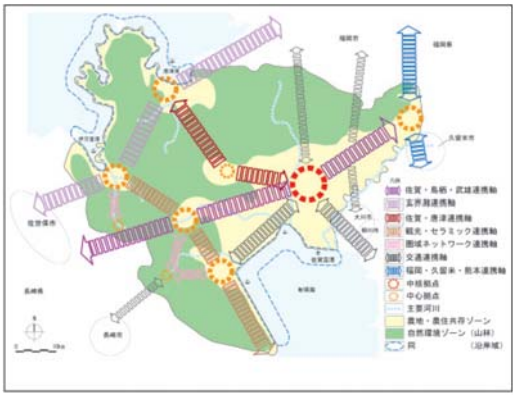


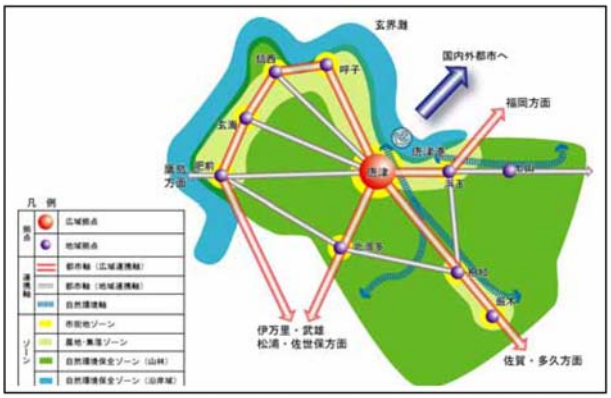
図　唐津市の歴史的変遷

（４） 上位計画における本市の位置づけ

◆ **佐賀都市圏との連携強化、福岡都市圏との交流拡大による、西九州の拠点都市としての発展**

○佐賀県の都市計画に関する基本方針（平成 17 年 4 月）	
県土づくりの基本理念	理念１　中核拠点の形成及び各都市が連携した活力ある都市づくり 理念２　豊かに安心・快適に暮らせる都市づくり 理念３　地域の特性を活かした個性と魅力ある都市づくり
県土整備の基本方向	①佐賀市を中心とした中核都市圏の形成 ②県内都市のコンパクトな市街地形成と相互の連携・交流 ③多自然居住地域の形成 ④県際交流圏の形成
地域づくりの目標（本市関係部分を抜粋）	**◆北部地域（唐津市、玄海町）** **①地域の将来像** **豊かな自然と歴史が織りなす海・陸の交流拠点** 地域資源を活かした観光振興、快適な空間整備により、人・産業・情報が流入しやすい魅力ある地域づくりを進める。 広域・高速交通基盤の整備と相まって、**佐賀都市圏との連携強化、福岡都市圏との交流拡大により、西九州の拠点都市としての発展を目指す。** **②地域整備の方向** (1)西九州の拠点として都市機能が集積した活力ある地域づくり ○都市機能の強化による地方拠点整備 ○国際観光港、貿易港として唐津港の港湾機能の整備充実 (2)玄界灘の豊かな自然や歴史を実感できる地域づくり ○優れた自然環境を保全する土地利用の規制誘導 ○歴史的文化遺産の保全・活用 (3)広域交通ネットワーク整備などによる滞在型交流地域づくり ○広域交通網の整備の推進 ○観光ネットワークの形成と滞在型観光地整備 ○農林水産業の振興と自然レクリエーション拠点の整備 (4)豊かな自然や歴史・文化を享受する多様な居住環境を備えた地域づくり ○身近な自然や歴史・文化を享受する都市型住宅地の整備 ○自然環境と調和する多様な居住環境の整備 ○快適かつ安全・安心な生活環境の形成

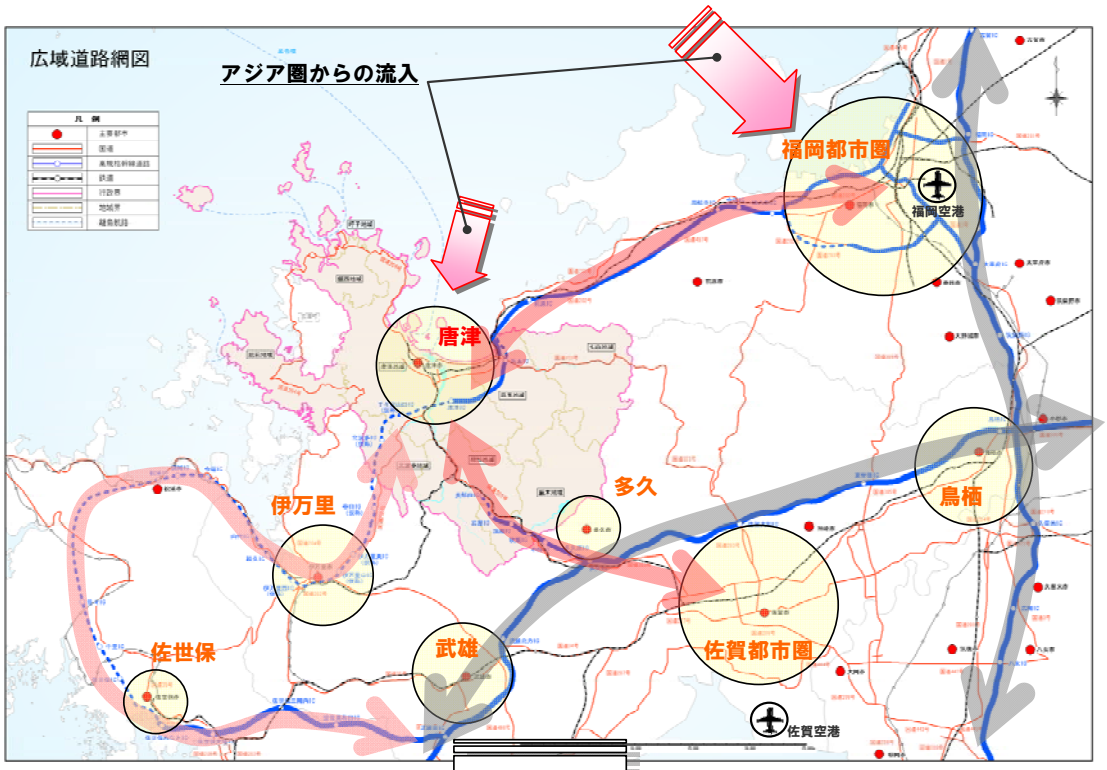


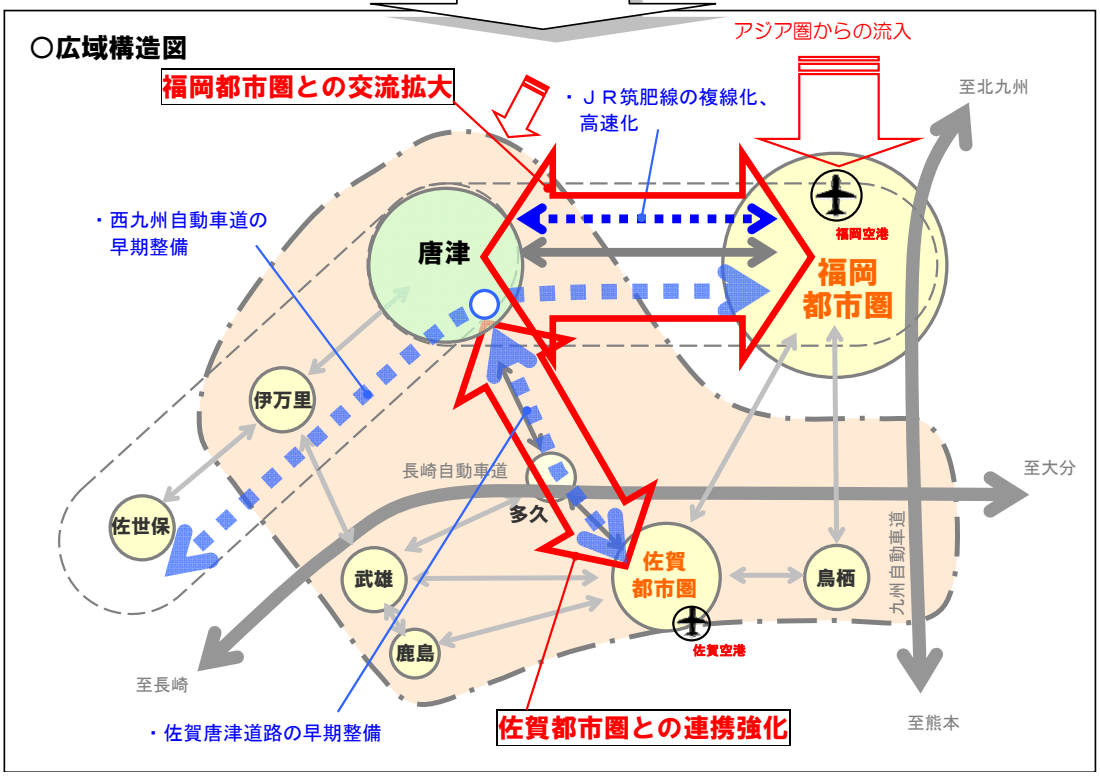


（５）　広域的に見た本市の位置づけ

◆　**佐賀都市圏との連携強化、福岡都市圏との交流拡大による、西九州の拠点都市としての発展**　（（４）上位計画における本市の位置づけと同じ）

「佐賀県の都市計画に関する基本方針（平成 17 年 4 月）」における北部地域の将来像より、広域的に見た本市の位置づけを「広域構造図」として整理します。





２－２　人口指標

（１）　人口・世帯数

- ◆　**人口は減少傾向**
- ◆　**世帯数は増加傾向**
- ◆　**県平均よりも高い減少率**

平成 17 年現在、行政区域内人口は 131,116 人、世帯数は 43,378 人であり、人口は緩やかな減少傾向にあるものの、世帯数は増加傾向にあり、核家族化の進行がうかがえます。

また、佐賀県および周辺市町村の人口の推移と比較してみると、佐賀県平均（▲1.3%）よりも大きな減少率となっている状況です。

（単位：人、世帯、人/世帯）

区域	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成19年	H2～H17 増加率
人　口	139,888	137,436	134,144	131,116	133,167	▲6.3%
世帯数	40,257	41,703	42,458	43,378	47,680	7.2%
世帯人員	3.5	3.3	3.2	3.0	2.8	－

資料：平成 2 年～17 年は国勢調査、平成 19 年は住民基本台帳（H19.9.1）より

（単位：人）

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	H2～17 増減数	H2～17 増減率
唐津市	139,888	137,436	134,144	131,116	▲8,772	▲6.3%
佐賀市	210,444	212,692	208,783	206,967	▲3,477	▲1.7%
多久市	25,162	24,507	23,949	22,739	▲2,423	▲9.6%
伊万里市	60,882	60,348	59,143	58,190	▲2,692	▲4.4%
武雄市	34,490	35,062	34,603	33,697	▲793	▲2.3%
玄海町	7,515	7,737	6,986	6,738	▲777	▲10.3%
小城市	40,283	43,491	45,375	45,852	5,569	13.8%
佐賀県	877,851	884,316	876,654	866,369	▲11,482	▲1.3%

資料：国勢調査

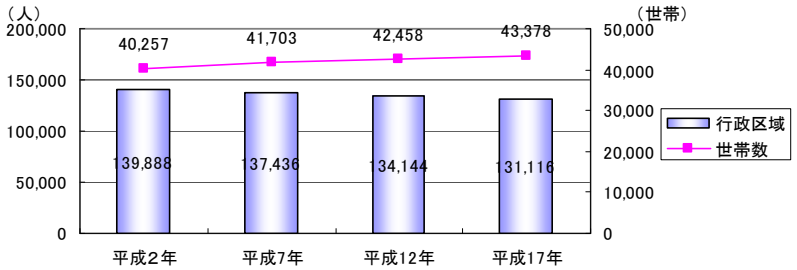


図　人口・世帯数の推移

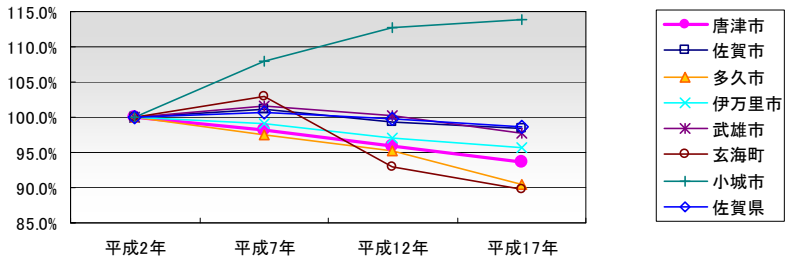


図　佐賀県及び周辺市町村の人口の推移（H2＝100）

（２）　年齢別人口

◆　**少子高齢化が進行**
◆　**特に老年人口比率は１／４の割合**

平成 17 年現在の本市の年齢別人口をみると、年少人口（0～14 歳）は 19,891 人、生産年齢人口（15～64 歳）は 79,478 人、老年人口（65 歳以上）は 31,550 人となっており、全体に占める高齢者人口の割合が 24.1％と 4 人に 1 人の割合となっています。

各年齢層の人口推移としては、年少人口の減少と老齢人口の増加がみられ、平成 7 年の時点で構成比の割合が逆転するなど、少子・高齢化が著しく進行しています。

（単位：人）

区域	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	佐賀県 平成 17 年
年少人口（0～14 歳）	28,678	25,089	21,986	19,891	131,969
生産年齢人口（15～64 歳）	89,052	86,612	82,922	79,478	537,864
老年人口（65 歳以上）	22,110	25,732	29,226	31,550	196,108
年齢不詳人口	48	3	10	197	428
合計	139,888	137,436	134,144	131,116	866,369

資料：国勢調査

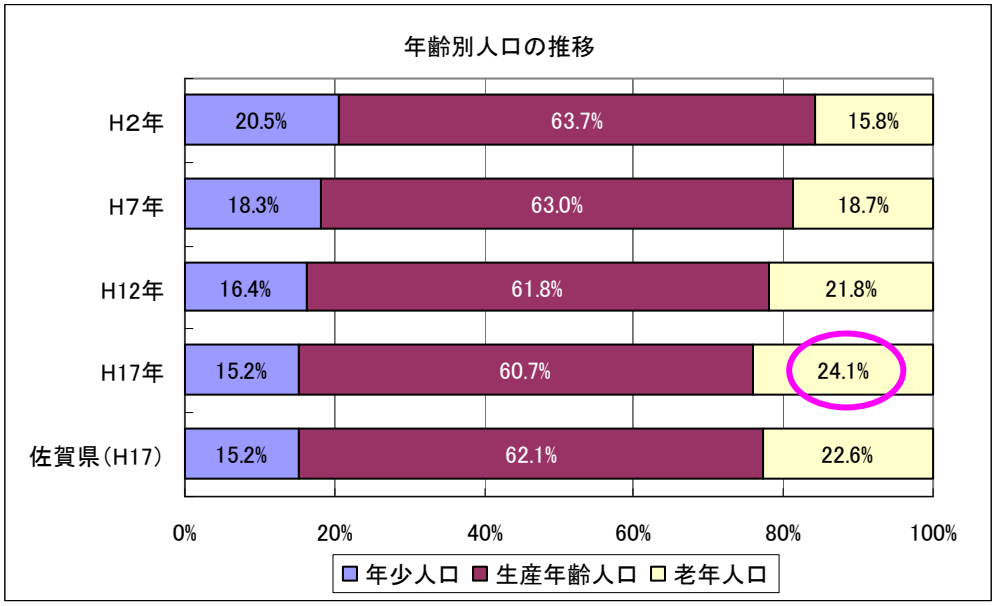


図　年齢別人口の推移

（３） 地区別人口動向

① 人口増減

◆ **唐津・浜玉の人口は、微減・微増と変化は小さいが、市街地部は空洞化傾向**
◆ **市街地周辺部での人口増が顕著**

旧９市町村の合計人口について、平成７年からの 10 年間の動向をみると、▲4.6%と県平均（▲2.0%）よりも減少率が大きく、特に東側の山間や西側の沿岸部での減少率が大きくなっています。一方、本圏域の中心部である唐津地域及び浜玉地域をみると、唐津地域では県平均よりも人口減少率が小さく、浜玉地域においては＋1.3%の増加率となっています。

また、下図の調査区別人口増減図をみると、用途地域指定区域の外縁部において人口増加が目立っている一方、市街地部では減少地区が目立っており、中心部の空洞化がうかがえます。

表　人口の推移（国勢調査）

（単位：人）

	H2年	H7年	H12 年	H17 年	H7-17 増減数	H7-17 増減率
唐津地域	79,207	79,575	78,945	78,175	▲1,400	▲1.8%
浜玉地域	10,224	10,296	10,415	10,427	131	1.3%
七山地域	3,125	2,869	2,698	2,552	▲317	▲11.0%
厳木地域	6,854	6,341	5,815	5,331	▲1,010	▲15.9%
相知地域	9,752	9,199	8,853	8,836	▲363	▲3.9%
北波多地域	5,199	4,925	4,736	4,586	▲339	▲6.9%
肥前地域	10,551	10,009	9,125	8,660	▲1,349	▲13.5%
鎮西地域	7,971	7,522	7,402	6,906	▲616	▲8.2%
呼子地域	7,005	6,700	6,155	5,643	▲1,057	▲15.8%
計	139,888	137,436	134,144	131,116	▲6,320	▲4.6%
佐賀県	877,851	884,316	876,654	866,369	▲17,947	▲2.0%

資料：国勢調査

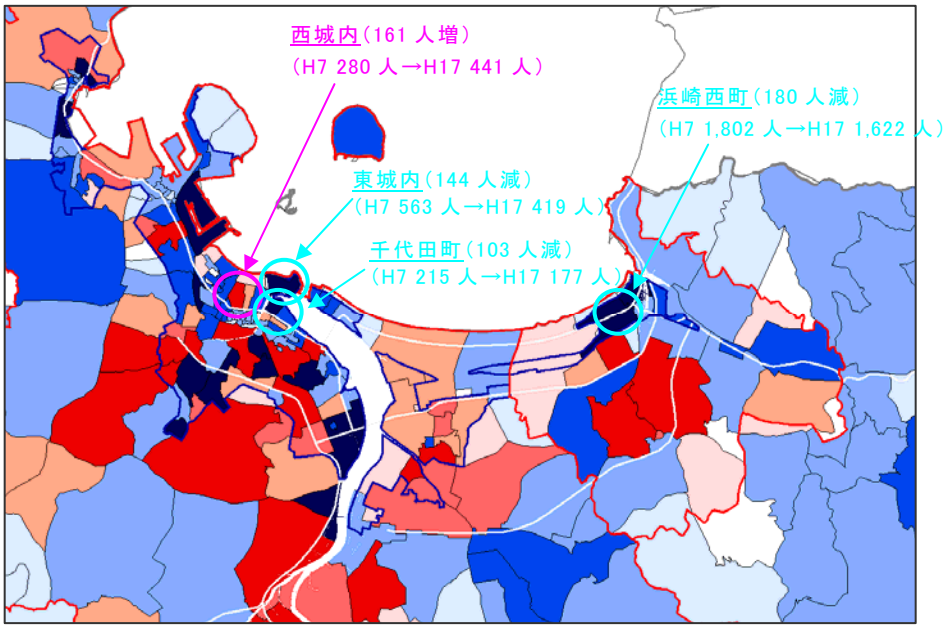


図　平成 7～17 年の調査区別人口増減図（国勢調査）市街地部

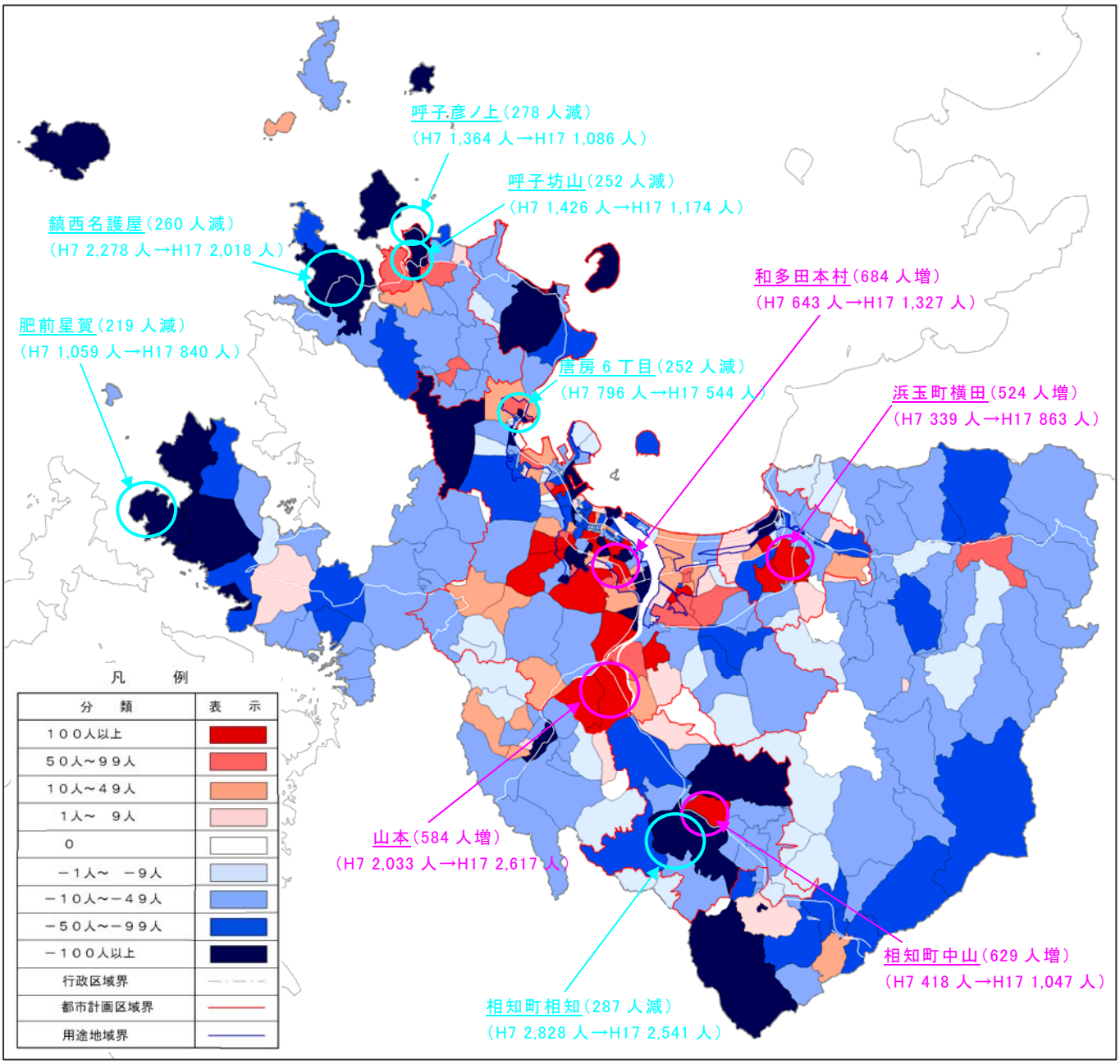


図　平成 7～17 年の調査区別人口増減図（国勢調査）

② 高齢人口比率

◆ **山間部・沿岸部の高齢人口比率が特に高い**
◆ **市街地周辺部では高齢人口比率が低いが、市街地部では高い**

唐津市全域における 65 歳以上の高齢人口の状況をみると、平成 17 年現在の高齢人口比率は 24.1%と約 4 人に 1 人の割合となっています。経年変化をみると、平成 2 年から平成 17 年までの 15 年間で 8.3 ポイントの増加と市全域で高齢化が進行しています。特に、厳木、相知、七山などの山間部や、呼子、肥前などの沿岸部での高齢化が顕著です。また、国道 202 号唐津バイパス南側、国道 204 号バイパス周辺などの市街地周辺部では高齢人口比率が低くなっている一方、市街地部においては高齢人口比率が高くなっている状況です。

表　高齢人口比率の推移

	H2年	H7年	H12 年	H17 年	H2-H17 変化ポイント
唐津地域	14.3%	16.7%	19.5%	21.7%	7.4
浜玉地域	16.4%	19.2%	21.7%	23.6%	7.2
七山地域	16.9%	21.2%	25.1%	29.2%	12.3
厳木地域	21.7%	25.2%	29.2%	31.7%	10.0
相知地域	19.6%	23.8%	27.7%	29.3%	9.8
北波多地域	17.2%	19.7%	22.2%	24.9%	7.7
肥前地域	16.8%	21.2%	25.3%	28.7%	11.9
鎮西地域	16.2%	20.4%	24.1%	26.9%	10.7
呼子地域	17.4%	21.5%	25.5%	29.1%	11.6
計	15.8%	18.7%	21.8%	24.1%	8.3
佐賀県	15.1%	17.8%	20.4%	22.6%	7.5

資料：国勢調査

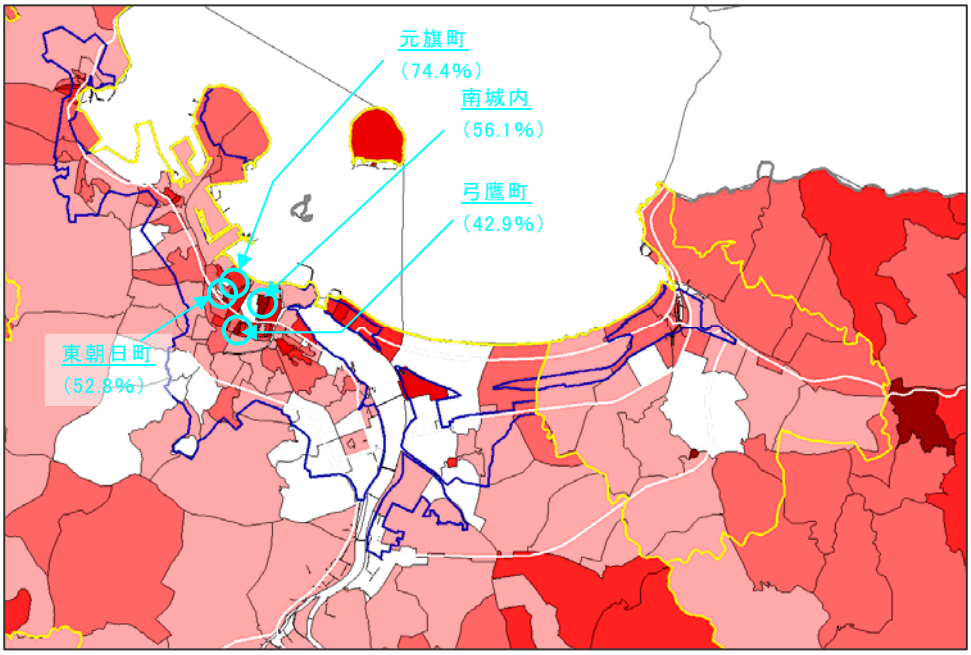


図　高齢人口比率（平成 17 年国勢調査）市街地部

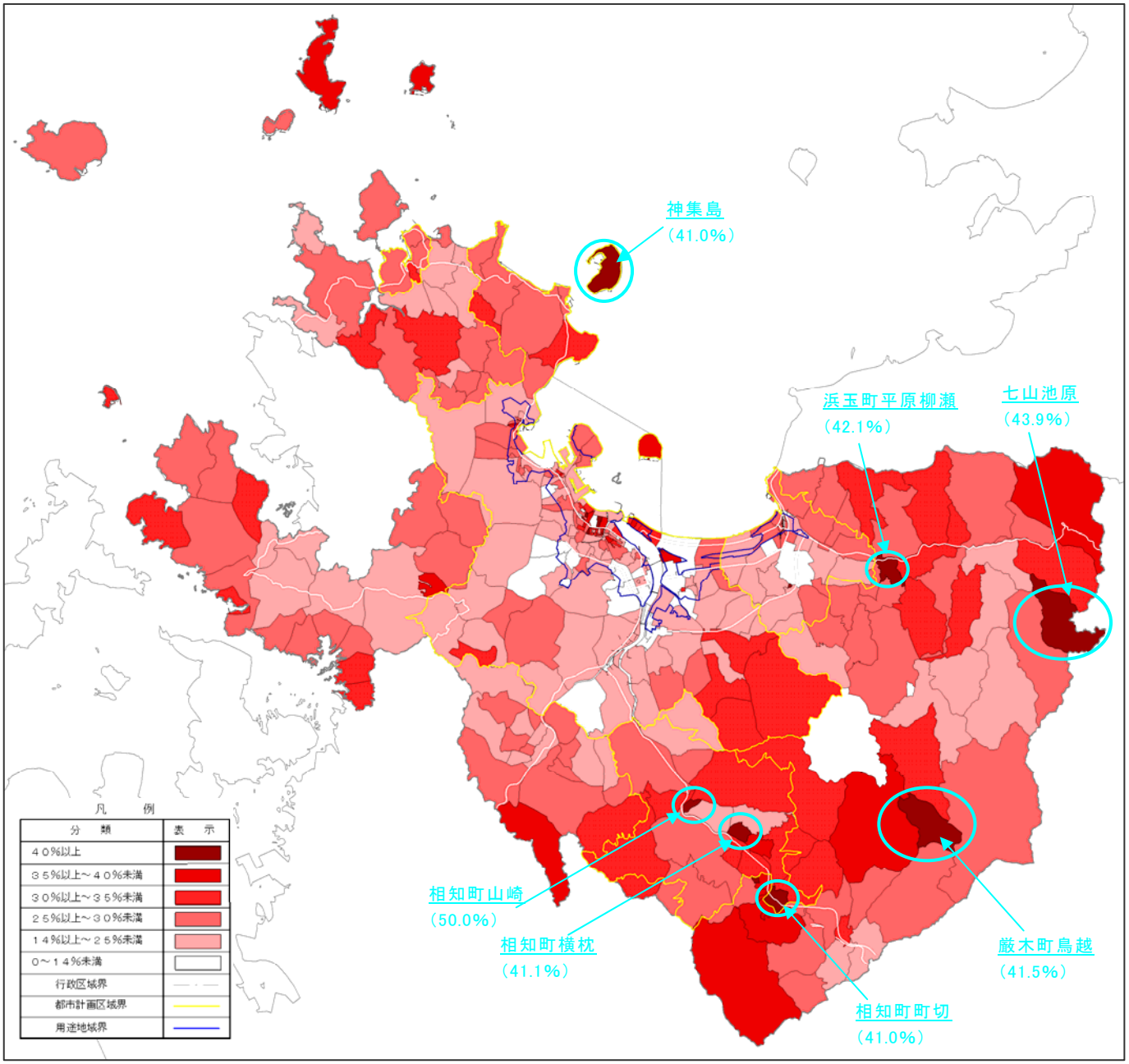


図　高齢人口比率（平成 17 年国勢調査）

（４） 通勤・通学状況から見た都市の性格

① 周辺市町村との通勤・通学状況

◆ 福岡市、玄海町、伊万里市、佐賀市、多久市との結びつきが強い

唐津市における通勤･通学の状況をみると､平成 17 年現在で流出人口 10,223 人、流入人口 5,582 人と流出過多となっています。流出・流入先をみると、流出先では福岡市が最も多くなっています。また、玄海町、伊万里市、佐賀市、多久市が流出・流入先ともに上位を占めており、これら市町との結びつきが強い状況となっています。

表 通勤･通学の状況

唐津市	常住地による就業者数	流出		従業地による就業者数	流入		就業者比率（従/常）
		就業者数	流出率		就業者数	流入率	
	（人）	（人）	（%）	（人）	（人）	（%）	（%）
平成2年	75,429	9,174	12.2%	70,425	4,170	5.9%	93.4%
平成7年	76,119	10,241	13.5%	70,841	4,963	7.0%	93.1%
平成12年	72,473	10,032	13.8%	67,668	5,227	7.7%	93.4%
平成17年	69,870	10,223	14.6%	65,229	5,582	8.6%	93.4%

流出率＝ 流出就業者数 / 常住地による就業者数

流入率＝ 流入就業者数 / 従業地による就業者数

就業者比率＝ 従業地による就業者数 / 常住地による就業者数

	流出先														
	流出率第1位			流出率第2位			流出率第3位			流出率第4位			流出率第5位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
		（人）	（%）		（人）	（%）		（人）	（%）		（人）	（%）		（人）	（%）
平成2年	福岡市	2,650	3.5%	玄海町	1,575	2.1%	佐賀市	1,525	2.0%	伊万里市	898	1.2%	多久市	742	1.0%
平成7年	福岡市	2,652	3.5%	玄海町	2,110	2.8%	佐賀市	1,414	1.9%	伊万里市	1,082	1.4%	多久市	912	1.2%
平成12年	福岡市	2,389	3.3%	玄海町	1,827	2.5%	佐賀市	1,357	1.9%	伊万里市	1,172	1.6%	多久市	854	1.2%
平成17年	福岡市	2,521	3.6%	玄海町	1,788	2.6%	佐賀市	1,389	2.0%	伊万里市	1,308	1.9%	多久市	727	1.0%

	流入先														
	流入率第1位			流入率第2位			流入率第3位			流入率第4位			流入率第5位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
		（人）	（%）		（人）	（%）		（人）	（%）		（人）	（%）		（人）	（%）
平成2年	伊万里市	976	1.4%	玄海町	880	1.2%	多久市	475	0.7%	福岡市	261	0.4%	佐賀市	248	0.4%
平成7年	伊万里市	1,028	1.5%	玄海町	929	1.3%	多久市	472	0.7%	福岡市	291	0.4%	佐賀市	267	0.4%
平成12年	伊万里市	1,027	1.5%	玄海町	994	1.5%	多久市	496	0.7%	福岡市	350	0.5%	佐賀市	322	0.5%
平成17年	伊万里市	1,077	1.7%	玄海町	1,028	1.6%	多久市	554	0.8%	佐賀市	475	0.7%	福岡市	393	0.6%

注:常住者による就業者数とは、当該都市に常住する(夜間人口ベース)就業者数をいう。
従業地による就業者数とは、当該都市に従業する(昼間人口ベース)就業者数をいう。

資料:国勢調査

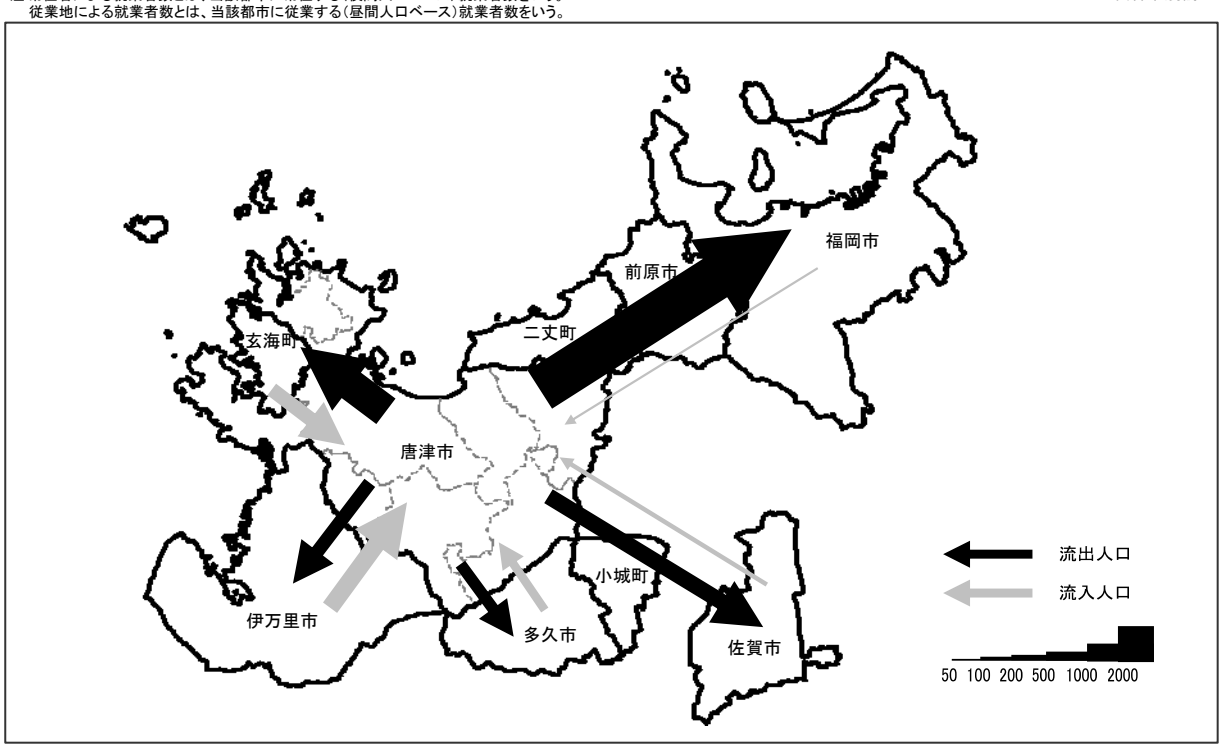


図 通勤・通学の状況（H17 年国勢調査）

② 唐津市内における通勤・通学状況

◆　唐津地域が圏域における通勤・通学の中心

市内各地域における通勤・通学の状況をみると、いずれも自地域内での就業・通学が第１位となっていますが、第２位はいずれも唐津地域となっていることから、唐津地域が市内における通勤･通学の中心となっていることが考えられます。

		常住地																	
		唐津地域		浜玉地域		七山地域		厳木地域		相知地域		北波多地域		肥前地域		鎮西地域		呼子地域	
就業地・通学地	唐津地域	33,409	79.2%	1,402	23.3%	263	15.4%	359	11.5%	1,137	23.8%	901	34.0%	1,186	24.2%	843	21.6%	634	19.7%
	浜玉地域	843	2.0%	3,602	59.8%	94	5.5%	15	0.5%	63	1.3%	45	1.7%	33	0.7%	29	0.7%	12	0.4%
	七山地域	112	0.3%	73	1.2%	1,205	70.5%	0	0.0%	10	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	厳木地域	307	0.7%	32	0.5%	0	0.0%	1,679	53.8%	232	4.9%	32	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	相知地域	438	1.0%	35	0.6%	10	0.6%	186	6.0%	2,320	48.6%	67	2.5%	37	0.8%	10	0.3%	0	0.0%
	北波多地域	368	0.9%	29	0.5%	0	0.0%	15	0.5%	67	1.4%	1,163	43.9%	33	0.7%	23	0.6%	12	0.4%
	肥前地域	247	0.6%	17	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	11	0.2%	0	0.0%	2,877	58.6%	17	0.4%	0	0.0%
	鎮西地域	448	1.1%	15	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	13	0.3%	0	0.0%	84	1.7%	2,369	60.7%	250	7.8%
	呼子地域	346	0.8%	15	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	10	0.2%	0	0.0%	32	0.7%	247	6.3%	2,078	64.6%

資料：平成12年国勢調査

※H17 年国勢調査の小地域集計では、唐津市内における常住地、就業地・通学地関係は公表されていないため、H12 年データを使用しています。

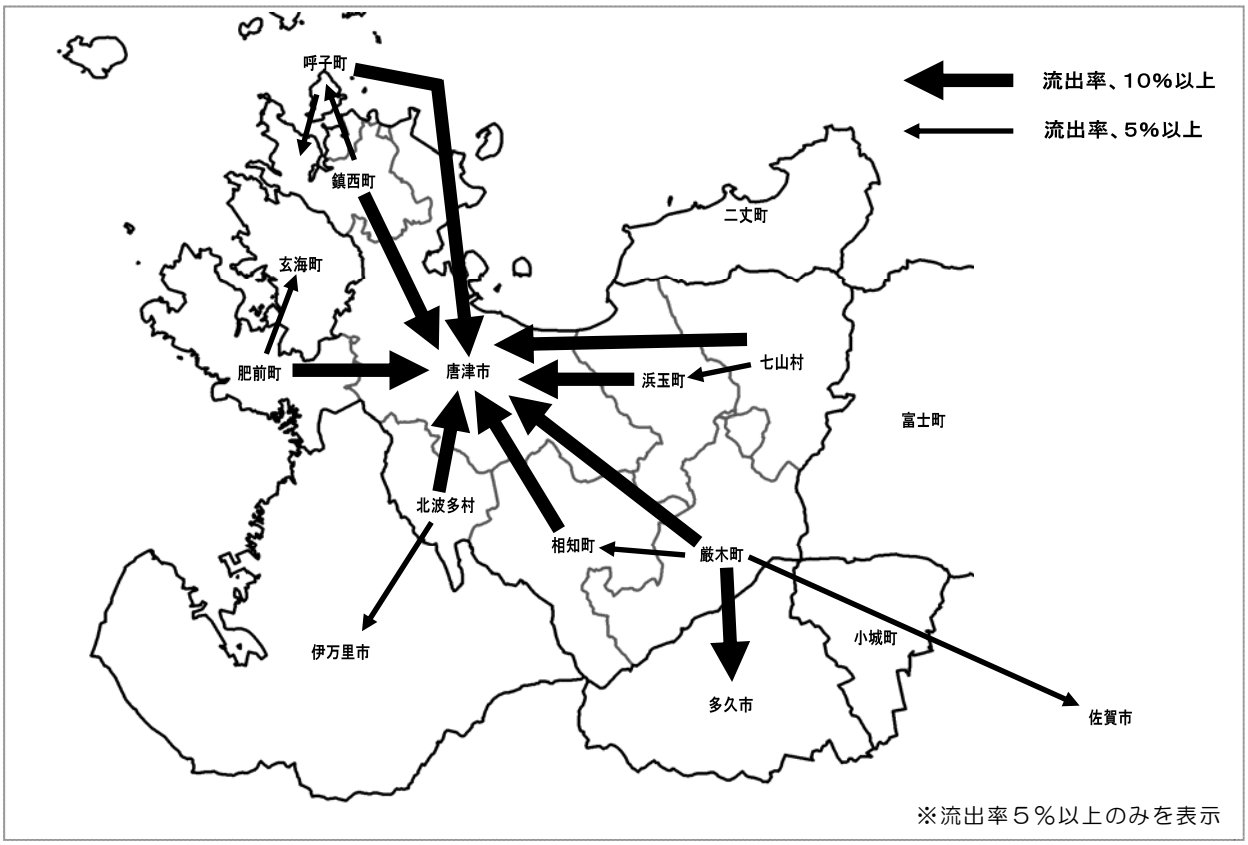


図　唐津市内の通勤・通学の状況（H12 年国勢調査）

③ 都市性格分類

- ◆ **唐津地域は「核型」**
- ◆ **その他は主に「住機能型」**

本市は、平成 12 年現在、県平均と比較して昼夜間人口が低く、自市内就業率が高い状況です。これにより、都市性格としては、鹿島市とともに「独立型」に分類され、就業の場としての機能を有し、1 都市である程度独立した生活圏を形成している都市として位置付けられます。

地域別にみると「唐津地域」が自市内就業率、昼夜間人口比率ともに最も高く「核型」に分類されている一方、その他の地域では、ほとんどが自市内就業率、昼夜間人口比率とも低い「住機能型」に分類され、「唐津地域」が本市の中核的役割を担っている状況がうかがえます。

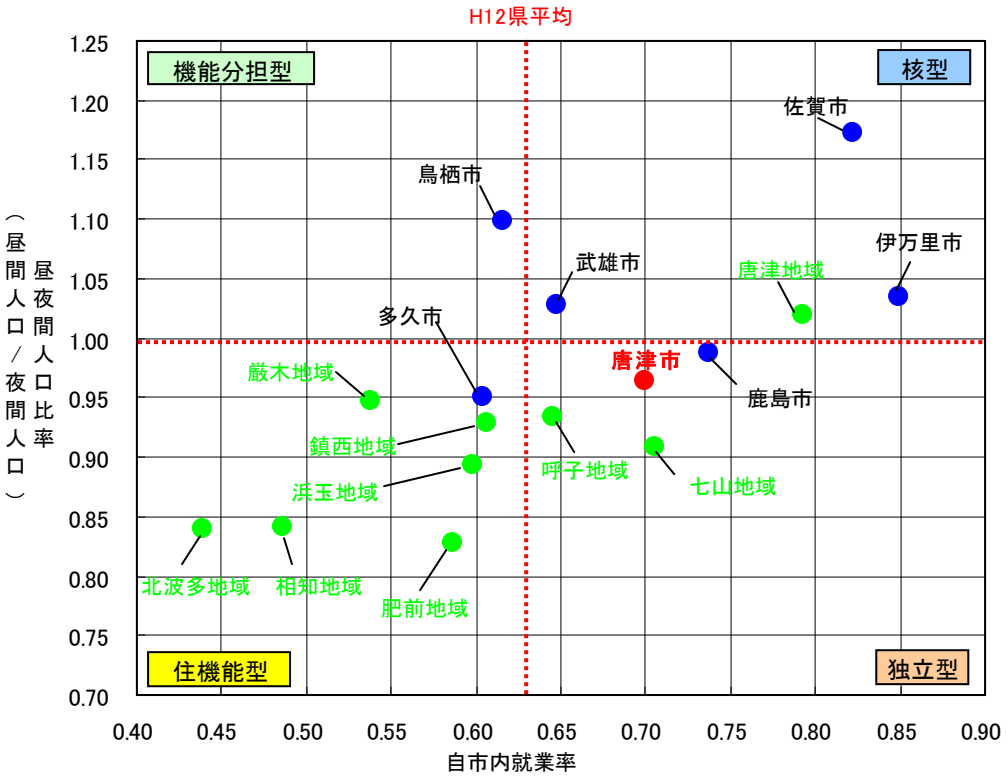


図　県内主要都市の自市内就業率・昼夜間人口比率（H12 年国勢調査）

※都市性格概要

核型	：自市内で働く人が多く、就業・就学者を含めた昼間の人口が多い都市であり、生活圏における中心都市として機能
独立型	：自市内で働く人は多いが、昼間の人口は多くない都市であり、1 都市である程度独立した生活圏を形成
住機能型	：自市内で働く人が少なく、夜間の人口が多い都市であり、周辺都市等のベッドタウンとして機能
機能分担型	：自市内で働く人は少ないが、昼間の人口が多い都市であり、職等の機能に特化

（５）　人口集中地区（ＤＩＤ）の推移

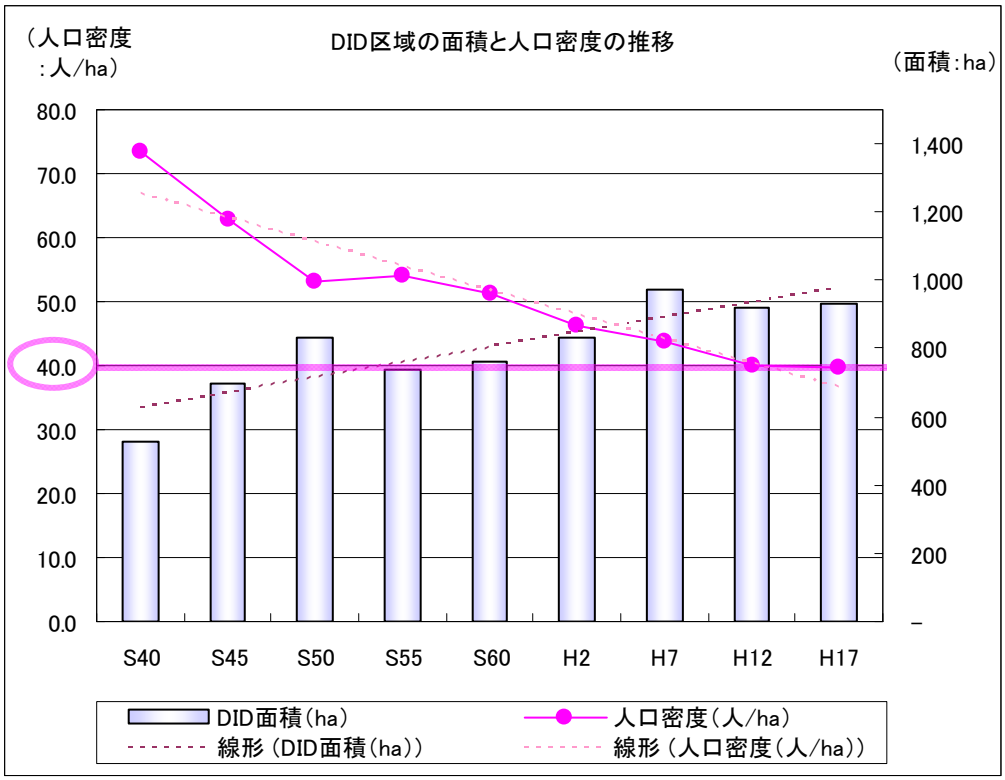
◆　低密度な市街化が進行

人口集中地区（DID※）の人口と面積の推移を見ると、人口は減少傾向にあるものの、面積は増加傾向にあり、人口集中地区（DID）の人口密度は低密度になってきていることから、市街地の拡散傾向がみられます。

	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
DID 人口（人）	38,922	43,987	44,004	40,103	39,042	38,452	42,576	36,901	37,092
DID 面積（ha）	530	700	830	740	760	830	970	919	931
人口密度（人/ha）	73.4	62.8	53.0	54.2	51.4	46.3	43.9	40.2	39.8

※H17 の DID 人口密度が 40 人/ha 未満（39.8 人/ha）となっているが、これは DID に指定されています。　資料：国勢調査
エリアに河川が含まれていることが要因であると考えられます。
※昭和 45 年、50 年、平成7年の DID 人口・面積は、人口集中地区Ⅱ（佐志、桜町等の飛び地）を含みます。

○人口集中地区（ＤＩＤ）の面積と人口密度の推移



※人口集中地区（DID）とは

人口集中地区（DID：DENSELY INHABITED DISTRICTS）とは、都市的地域（特に人口密度の高い地域で、広い意味での市街地を指します。）の特質を明らかにするための指標であり、
①「原則として人口密度が１平方キロメートル当たり 4,000 人（40 人/ha）以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接」して、②「それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に 5,000 人以上を有する地域」のことです。

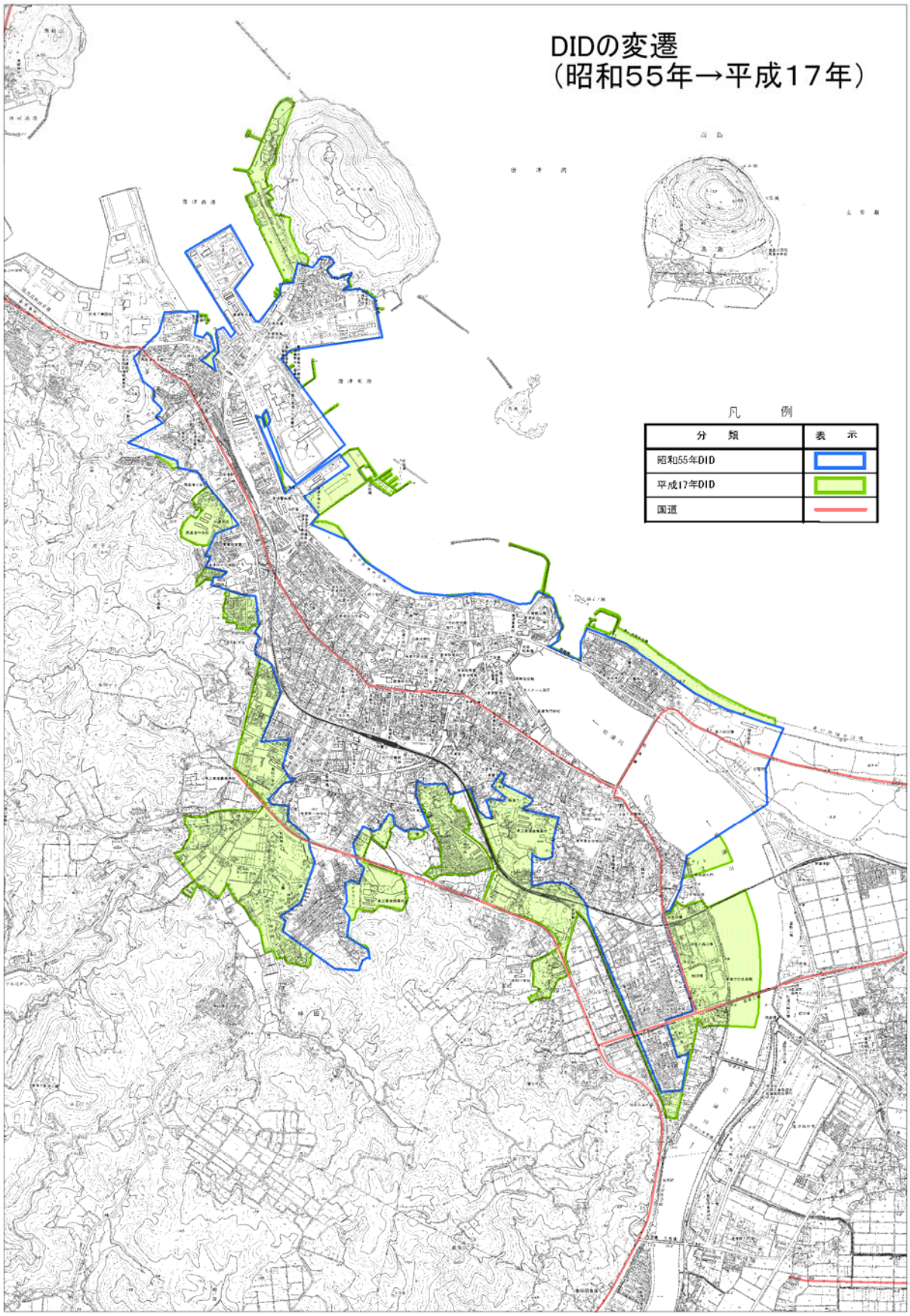


図　人口集中地区（ＤＩＤ）の変遷（国勢調査）

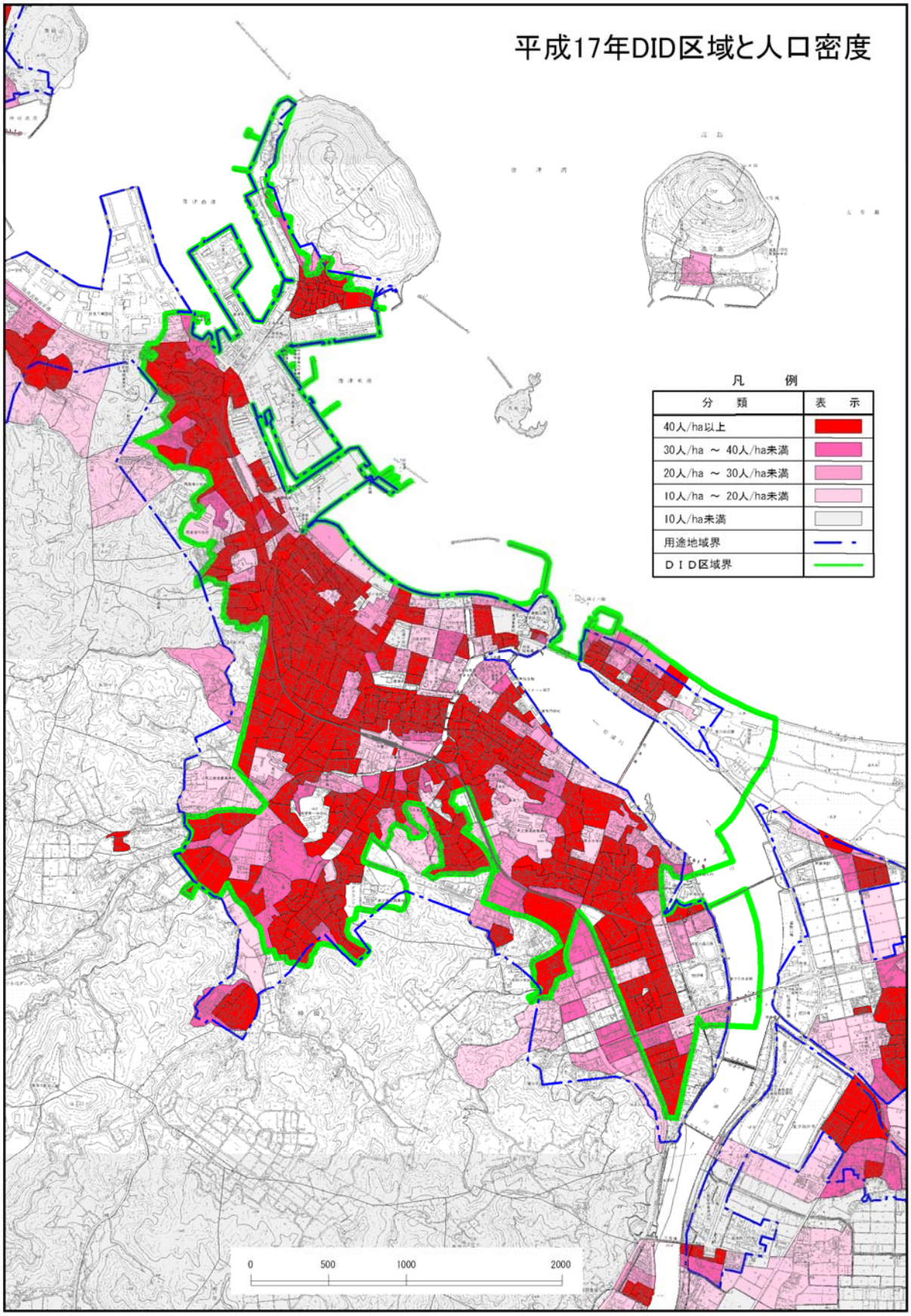


図　人口集中地区の国勢調査区別人口密度分布（平成 17 年国勢調査）

２－３　産業指標

（１）　産業大分類別人口

◆　**３次産業の割合大**
◆　**サービス業が全体の 1/3**

唐津市では、第３次産業就業者の割合が最も大きく、平成 17 年には全体の 62%を超え、38,000 人から 39,000 人と高い就業者数で推移しています。次いで、第２次産業、第１次産業の順となっていますが、第１次産業の割合は 14%から 15%程度と最も低く、さらに年々減少しており、平成 17 年には 9,037 人となっています。

分類別にみると、サービス業が 34%と全体の 1/3 を占めています。

表　産業分類別人口の構成比

産業大分類	平成2年		平成7年		平成12年		平成17年	
	就業者数（人）	構成比（%）	就業者数（人）	構成比（%）	就業者数（人）	構成比（%）	就業者数（人）	構成比（%）
A. 農業	10,060	15.0	8,680	12.7	7,921	12.1	7,696	12.0
B. 林業. 狩猟業	79	0.1	98	0.1	78	0.1	53	0.1
C. 漁業. 水産養殖業	2,479	3.7	2,013	2.9	1,508	2.3	1,288	2.0
第1次産業合計	12,618	18.8	10,791	15.7	9,507	14.5	9,037	14.1
D. 鉱業	154	0.2	181	0.3	172	0.3	106	0.2
E. 建設業	7,553	11.3	9,415	13.8	8,367	12.8	7,092	11.2
F. 製造業	10,086	15.0	9,735	14.3	8,307	12.7	7,532	11.9
第2次産業合計	17,793	26.5	19,331	28.4	16,846	25.8	14,730	23.3
G. 卸売業. 小売業	13,396	20.0	13,659	20.0	13,831	21.1	10,661	16.8
H. 金融. 保険業	1,275	1.9	1,209	1.8	1,134	1.7	992	1.6
I. 不動産業	192	0.3	164	0.2	188	0.3	251	0.4
J. 運輸. 通信業	3,562	5.3	3,433	5.0	3,153	4.8	3,013	4.7
K. 電気. ガス. 水道	589	0.9	627	0.9	760	1.2	659	1.0
L. サービス業	15,183	22.6	16,499	24.2	17,393	26.6	21,568	34.0
M. 公務	2,433	3.6	2,438	3.6	2,489	3.8	2,324	3.7
第3次産業合計	36,630	54.6	38,029	55.7	38,948	59.5	39,468	62.2
N. 分類不能の産業	18	0.0	100	0.1	106	0.2	285	0.4
合計	67,059	100.0	68,251	100.0	65,407	100.0	63,520	100.0

資料：国勢調査

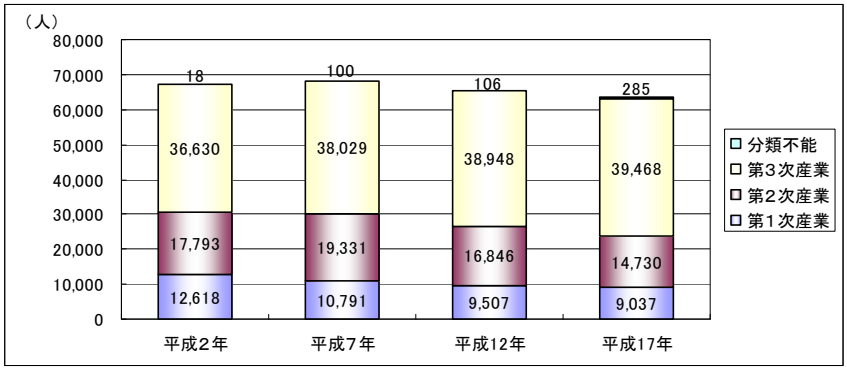


図　産業人口の推移

（２）　産業中分類別製造品出荷額、商業販売額

①　製造品出荷額

◆　製造品出荷額、商業販売額ともに、やや回復の兆し

平成 17 年において事業所数 190 件、製造品出荷額 103,000 百万円となっており、経年変化をみると、平成 16 年まで年々減少傾向が続いていましたが、平成 17 年で事業所数、製造品出荷額共に増加に転じています。

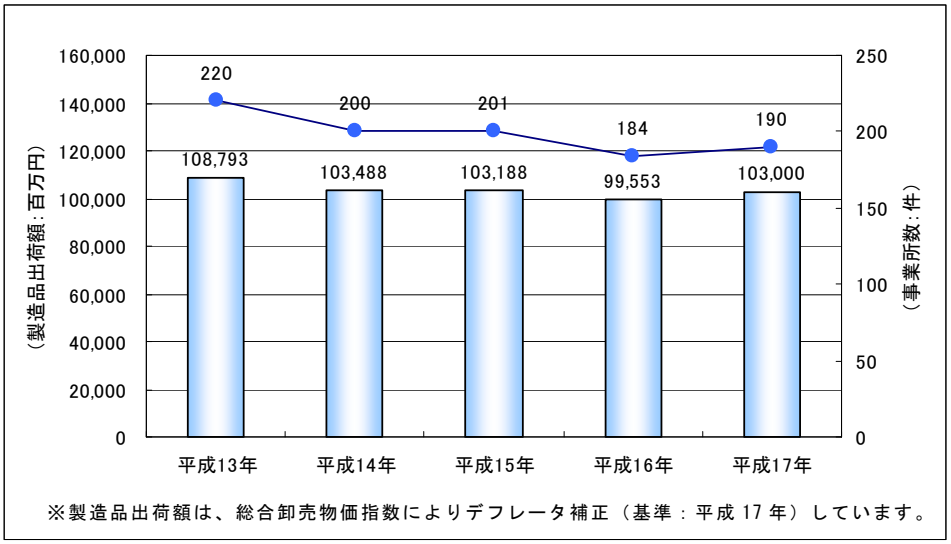


図　事業所数・製造品出荷額の推移

資料：工業統計調査

②　商業販売額

平成 16 年において店舗数 2,028 件、227,923 百万円となっています。経年変化をみると、平成 9 年から平成 14 年までは減少傾向にあり、特に平成 11 年から平成 14 年にかけては比較的大きな減少となっています。その後、平成 16 年には店舗数は減少傾向のままですが、商業販売額は増加に転じています。

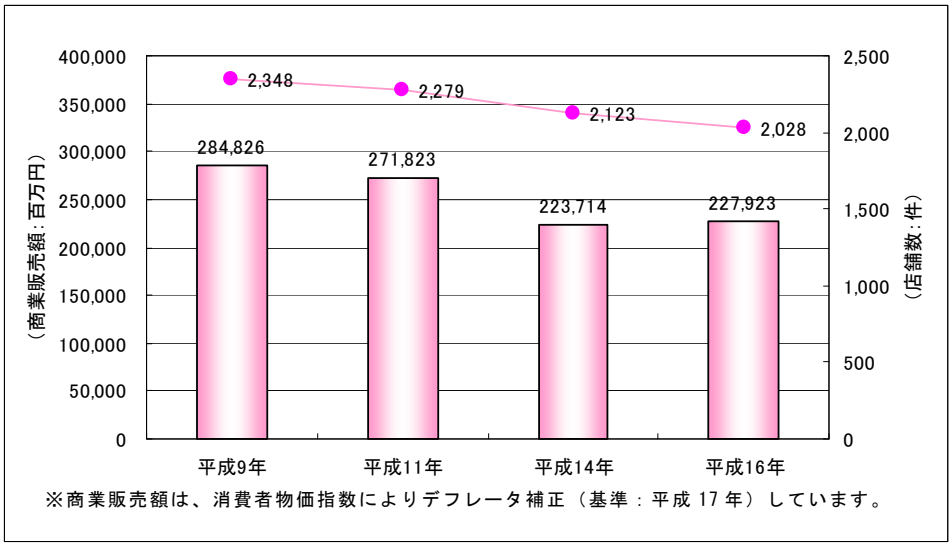


図　店舗数・商業販売額の推移

資料：商業統計調査

③ 中心商店街の状況

- ◆ 商店街の空き店舗率は約２割
- ◆ 商店街の通行量はピーク時の約３割

唐津市中心部の商店街の状況をみると、空き店舗率は約 22%、平日の通行量は平成 21 年で約 7,700 人と平成 10 年のピーク時の 2.6 万人から約 30%まで減少しており、中心商店街の衰退が課題となっています。

表　空き店舗の状況

（平成 20 年 10 月末現在）

商店街名	営業店舗数	空き店舗数	空き店舗率
中町商店街	94	15	13.8%
呉服町商店街	40	12	23.1%
京町商店街	30	12	28.6%
大手通り商店街	25	14	35.9%
計	189	53	21.9%

資料：唐津市資料

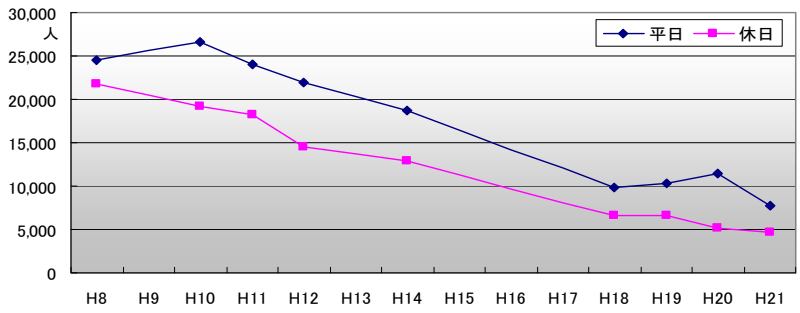


図　通行量の推移（唐津市中央商店商店街）　資料：唐津市資料

④ 観光客の動向

- ◆ 観光客数は県下一だが、日帰り客が約９割
- ◆ 自家用車利用が約８割

唐津市は、虹ノ松原、唐津城、唐津くんち、唐津焼、呼子朝市、名護屋城址などをはじめとする観光資源に恵まれているため、佐賀県内でも最大の観光客数を誇っています。しかしながら、観光客のうち、日帰り客が約９割を占めています。また、交通手段としては、自家用車利用が全体の約８割を占めています。

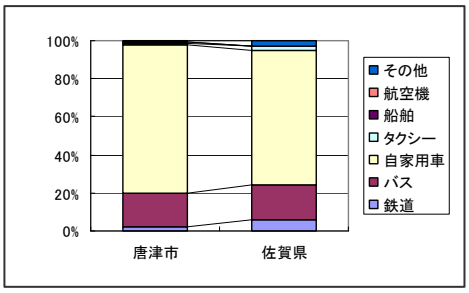


図　交通手段別割合（H17）

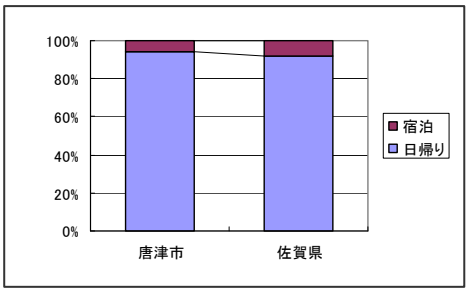


図　日帰り･宿泊比率（H17）

資料：H17 佐賀県観光客動向

２－４　土地利用指標

（１）　土地利用現況

- ◆　山林が全体の約半数を占める
- ◆　宅地は約５％

土地利用現況の構成比を見ると、自然的土地利用は 88%を占め、中でも山林の占める割合が最も多く 53%、次いで、畑 14%、田 10%の順となっています。

また、都市的土地利用では、住宅用地が４%と最も大きく、次いで道路用地４%、公共・公益用地 1%の順となっています。

市街地区分別にみると、用途地域内では住宅用地などの都市的土地利用が４分の３を占めており、用途地域外、都市計画区域外においては、農地などの自然的土地利用が約９割を占めています。

表　土地利用別面積

市街地区分	自然的土地利用							都市的土地利用												
	農地						小計	宅地			小計	公共・公益用地	道路用地	交通施設用地	その他の公的施設用地	その他の空地	小計	合計	可住地	非可住地
	田 (ha)	畑 (ha)	小計 (ha)	山林 (ha)	水面 (ha)	その他の自然地 (ha)	(ha)	住宅用地 (ha)	商業用地 (ha)	工業用地 (ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)
用途地域	89.3	83.3	172.6	102.7	35.9	62.1	373.2	544.0	89.4	74.7	708.2	192.7	231.5	34.9	0.0	32.4	1,199.6	1,572.8	917.0	655.8
用途地域外	1,885.4	2,232.4	4,117.9	7,799.3	462.8	1,548.8	13,928.7	736.7	84.8	65.6	887.1	194.7	711.0	44.5	0.0	284.2	2,121.5	16,050.2	13,075.9	2,974.3
都市計画区域	1,974.8	2,315.7	4,290.5	7,902.0	498.6	1,610.9	14,302.0	1,280.8	174.2	140.2	1,595.2	387.4	942.4	79.4	0.0	316.6	3,321.0	17,623.0	13,992.9	3,630.1
都市計画区域外	2,884.2	4,712.8	7,597.0	17,944.4	377.2	2,789.7	28,708.2	786.1	56.0	68.5	910.6	195.5	979.3	8.6	0.0	288.9	2,382.8	31,091.0	26,732.5	4,358.5
合計	4,858.9	7,028.5	11,887.4	25,846.4	875.8	4,400.6	43,010.2	2,066.8	230.3	208.7	2,505.8	582.9	1,921.7	87.9	0.0	605.5	5,703.8	48,714.0	40,725.3	7,988.7
面積割合	10.0%	14.4%	24.4%	53.1%	1.8%	9.0%	88.3%	4.2%	0.5%	0.4%	5.1%	1.2%	3.9%	0.2%	0.0%	1.2%	11.7%	100.0%		

注：面積集計は土地利用現況図を基に図上計測による地区別案分処理により算定。　　資料：土地利用現況図（平成18年都市計画基礎調査）

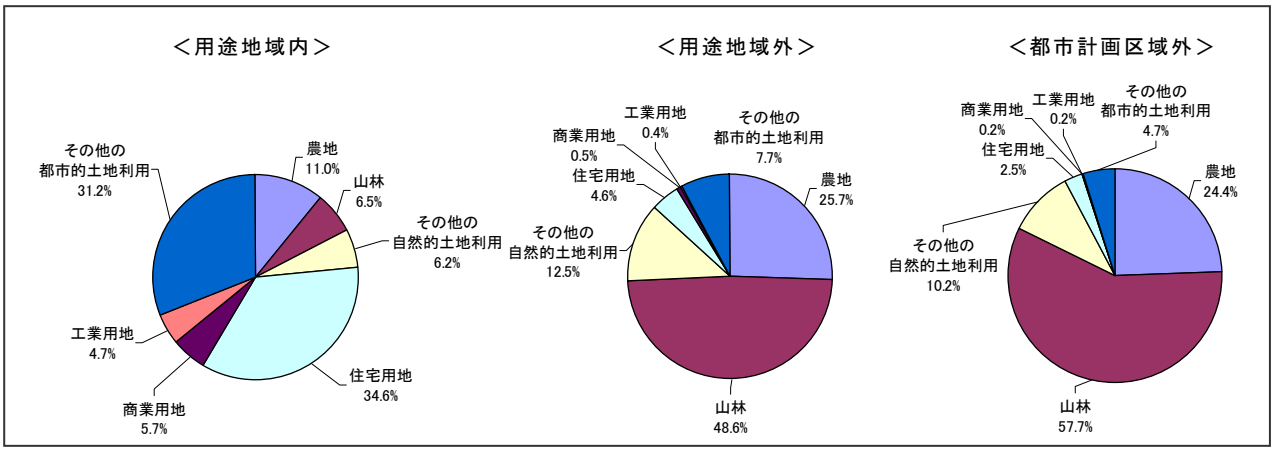


図　市街地区分別地目別面積の構成比

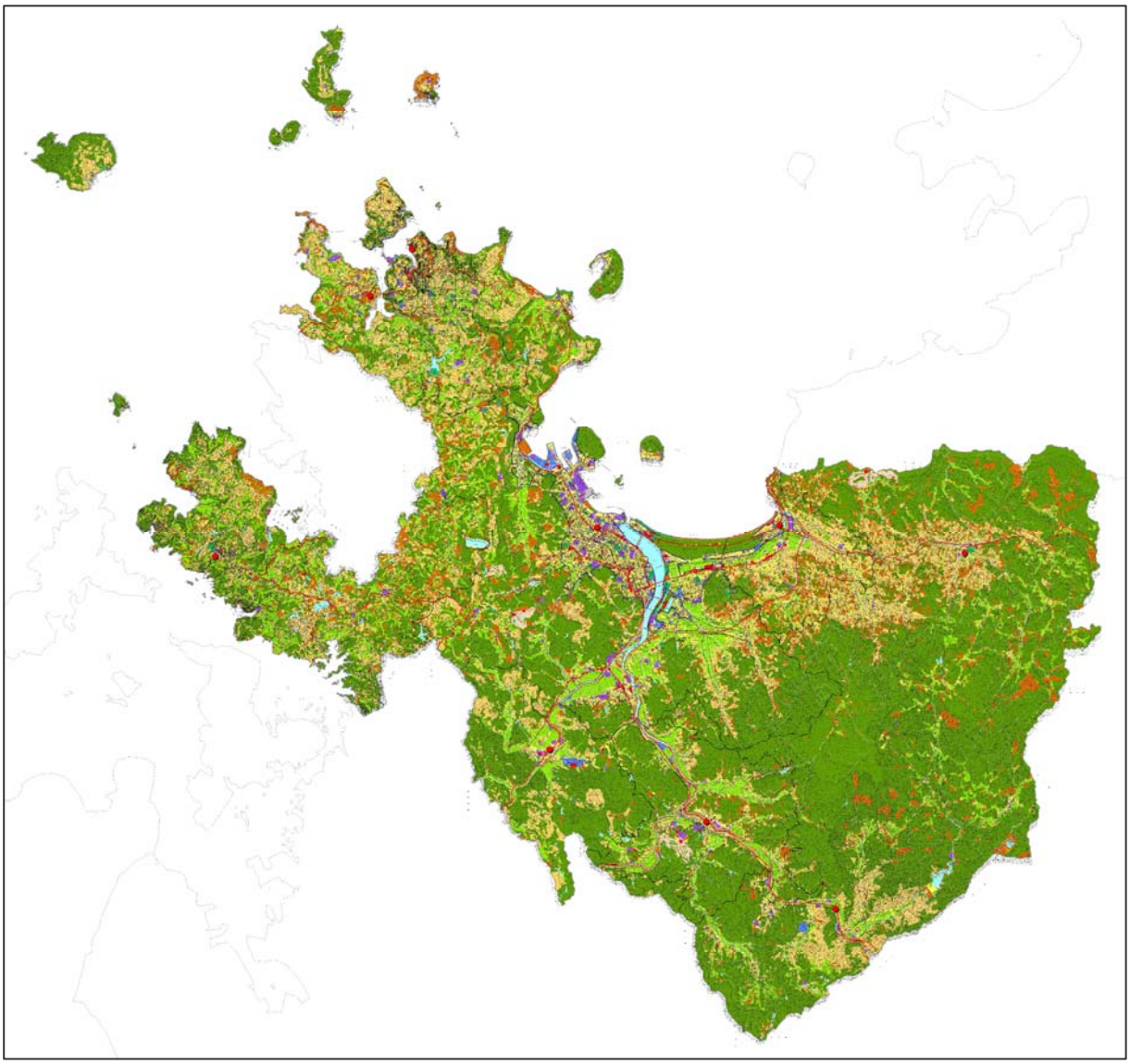


図　土地利用現況（資料：H18 年都市計画基礎調査）

凡　　例

分　類	表　示
田	
畑	
山林	
水面	
その他自然地	
住宅用地	
商業用地	
工業用地	
公益施設用地	
道路用地	
交通施設用地	
公共空地	
その他の公的施設	
その他の空地	
行政区域界	
都市計画区域界	
用途地域界	

（２）　土地利用コントロール状況

① 都市計画区域の指定状況

◆　**唐津、相知、呼子の３つの都市計画区域が存在**
◆　**唐津都市計画区域のみ、用途地域指定**

本市の面積約 48,714ha のうち、約 36%にあたる 17,623ha に、唐津、相知、呼子の３つの都市計画区域が指定されています。その中でも唐津都市計画区域においては「用途地域」が指定され、きめ細やかな土地利用の規制・誘導が行われています。

表　都市計画区域の状況

名称	地域	面積(ha)	割合
唐津都市計画区域	唐津地域	11,658	23.9%
	浜玉地域	1,805	3.7%
相知都市計画区域	相知地域	3,862	7.9%
呼子都市計画区域	呼子地域	298	0.6%
都市計画区域合計		17,623	36.2%
唐津市全域		48,714	100.0%

資料：平成 18 年都市計画年報

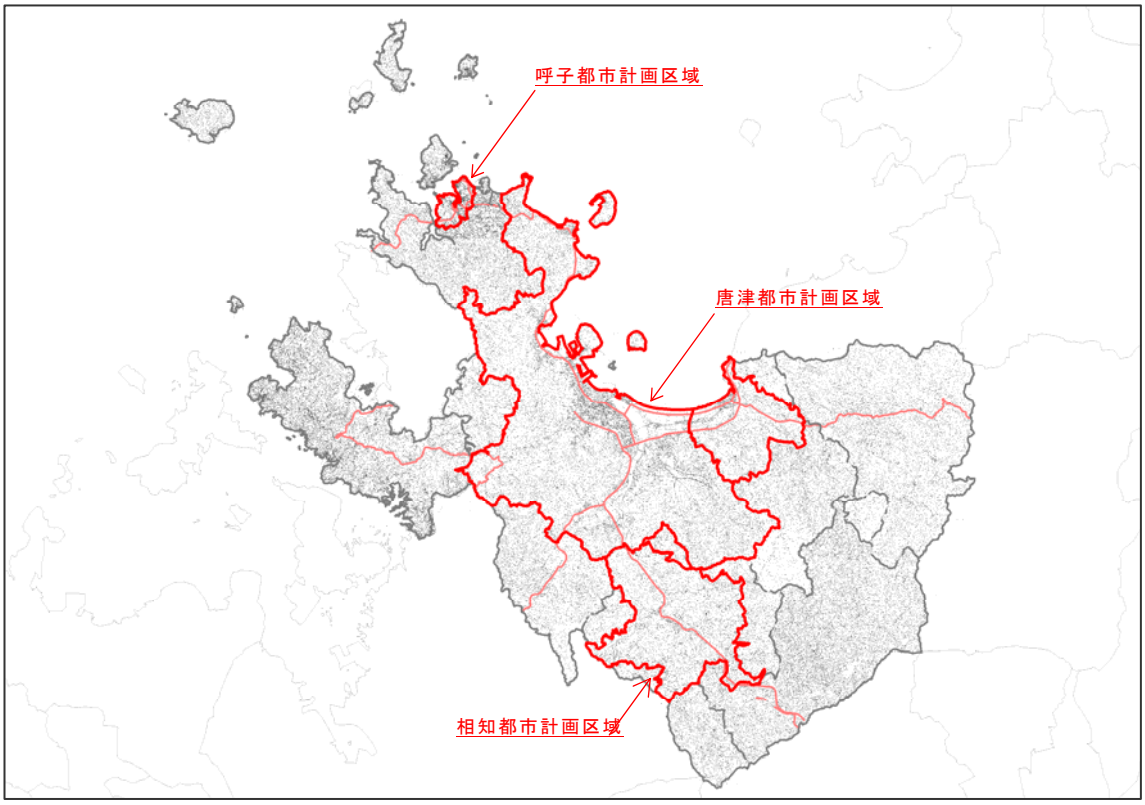


図　都市計画区域の分布状況

② 農地法・森林法・自然公園法等

◆　一部地域において開発に対する制限が緩い地域が存在

唐津市の主な土地利用規制の状況をみると、都市計画サイド、農業サイド、及び緑地保全サイドのもので重複構成されています。

都市計画サイドでは、唐津、相知、呼子の３つの都市計画区域が設定されているものの、唐津と相知では一部が山林で分断されており、また、唐津と呼子では、旧市町村界での指定となっているため、旧鎮西町部分で分断される形となっています。また、農業サイドでは、農振法による農用地区域が勾配の緩い地形を中心に広く指定されていますが、旧相知町の中心部など一部地域では未指定の地域もあります。緑地保全サイドでは、森林法による保安林が東側の山間部等を中心に広く指定されており、自然公園法による特別地域についても、海岸線を中心に広く指定されている。

このように都市計画区域外においても、大部分の地域においては農用地区域や保安林などの優良な農地や良好な自然環境を維持・保全するための制度が設けてあるものの、一部地域においては相対的に開発に対する制限が緩い地域も存在しています。

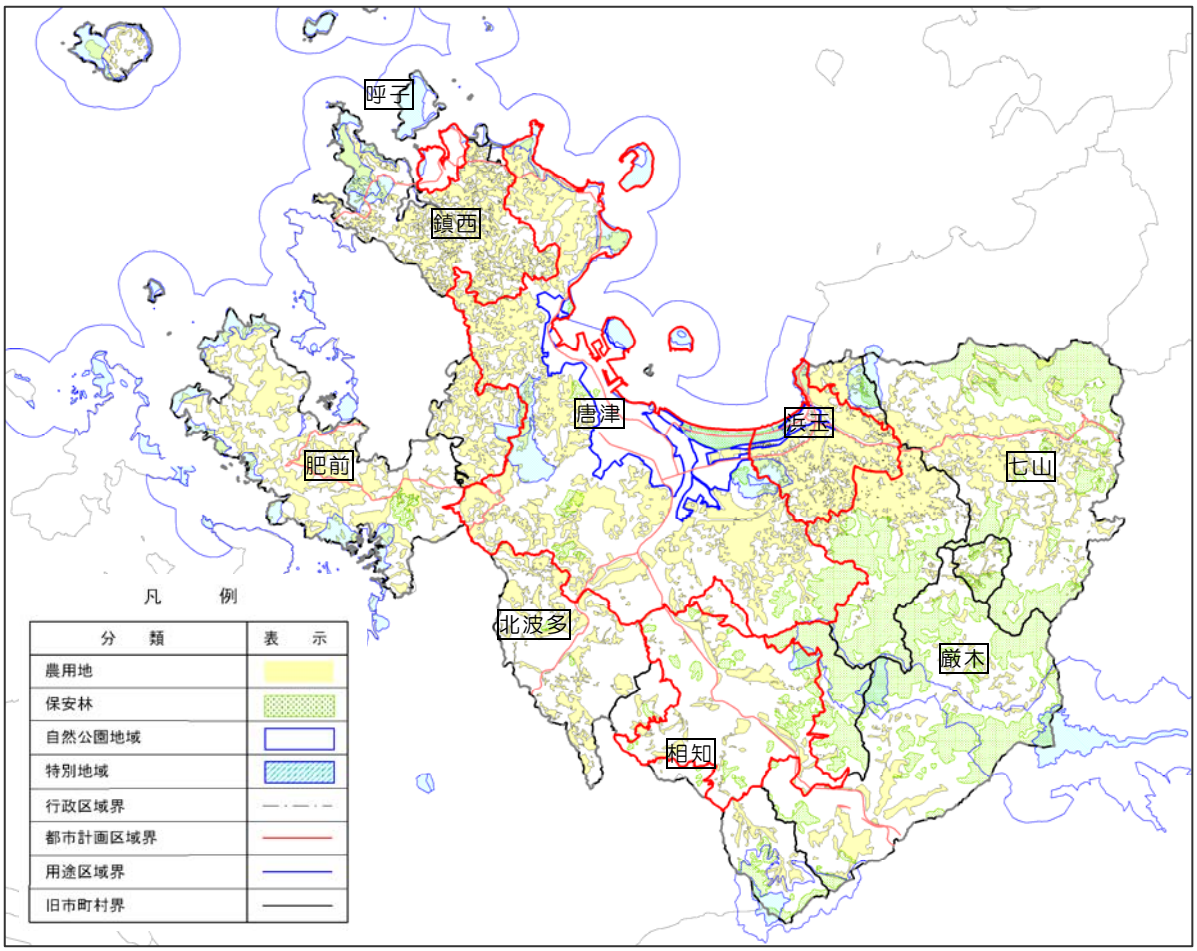


図　各種土地利用規制の状況（資料：H18 年都市計画基礎調査）

（３）　開発動向（新築動向・農地転用動向・開発行為）

① 新築動向

- ◆ **用途地域内に集中**
- ◆ **その他は国道 202 号唐津バイパス・国道 203 号など国道沿線**

平成 13 年から 17 年までの５年間における新築状況についてみると、件数は５年間で 1,976 件、うち住宅が 1,617 件と８割以上を占めています。近年の動向をみると、330～400 件の間で推移しており、住・商・工の割合の極端な変動は見られません。また、新築活動の分布状況をみると、用途地域内に集中しており、それ以外では国道 202 号唐津バイパスや国道 203 号など国道沿線に分布しています。

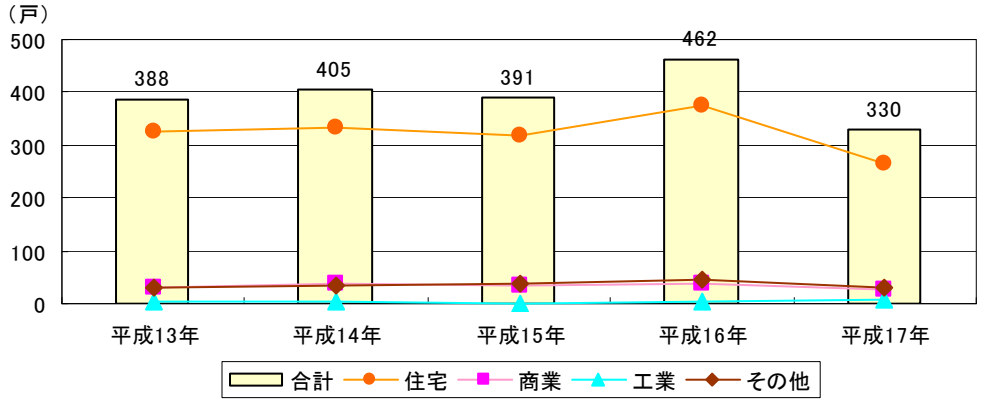


図　新築着工件数の推移（行政区域全体）

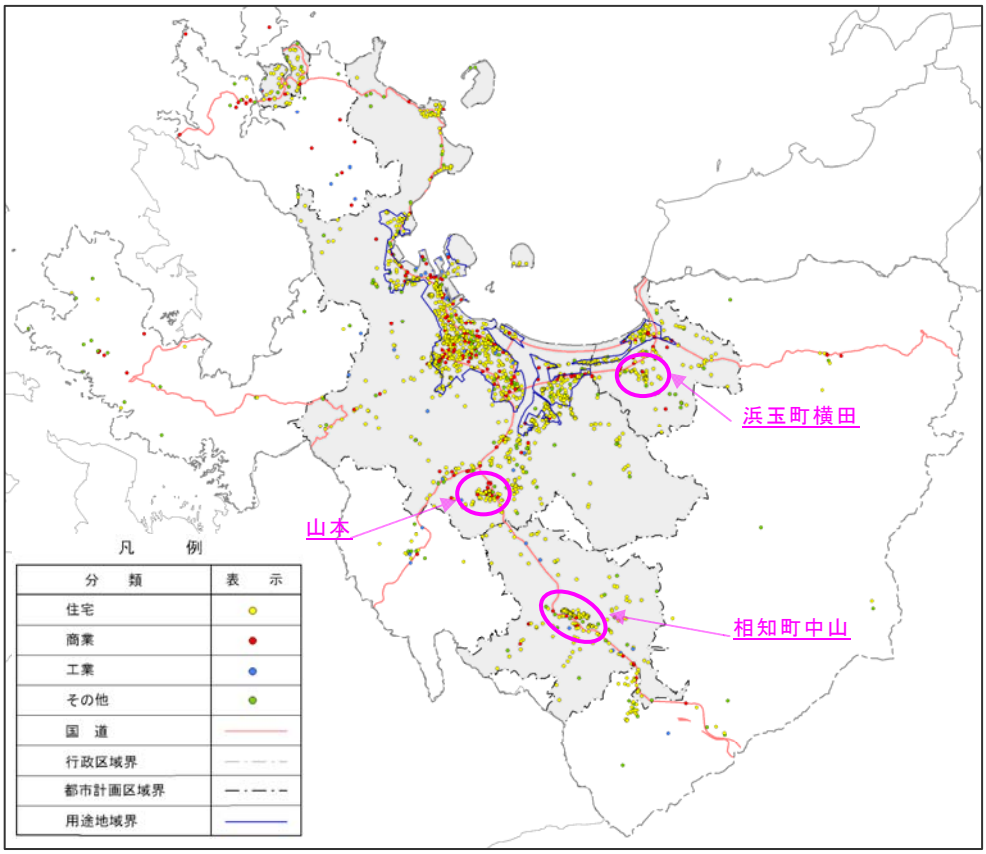


図　H13～17 年 建物新築分布図（資料：Ｈ18 年都市計画基礎調査）

② 農地転用動向

- ◆ **H16 まで増加傾向**
- ◆ **住宅への転用が約半数**
- ◆ **用途地域外縁部での転用多い**

農地転用状況をみると、平成 13 年から 17 年の 5 年間で 1,106 件行われています。経年変化をみると、平成 13 年から平成 16 年までは増加傾向が続いていましたが、平成 17 年で減少に転じています。用途別農地転用件数を見ると、平成 13 年から平成 17 年までの 5 年間において住宅用地への転用が約 5 割と最も多く、その他（植林、資材置場、農業用倉庫等）、商業用地と続いています。

これら農地転用の位置をみると、農地の少ない用途地域内では約 2 割前後の転用率で推移しています。また、平成 15 年までは都市計画区域外での転用が増加傾向にありましたが、平成 15 年以降は用途地域外での転用割合が高くなっており、平成 17 年では約 5 割に届く状況です。

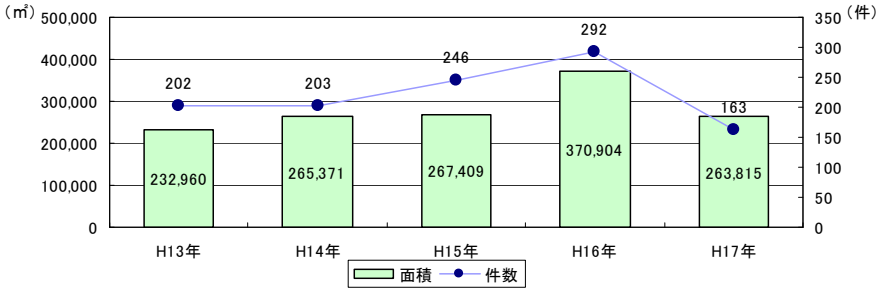


図　農地転用件数、面積の推移

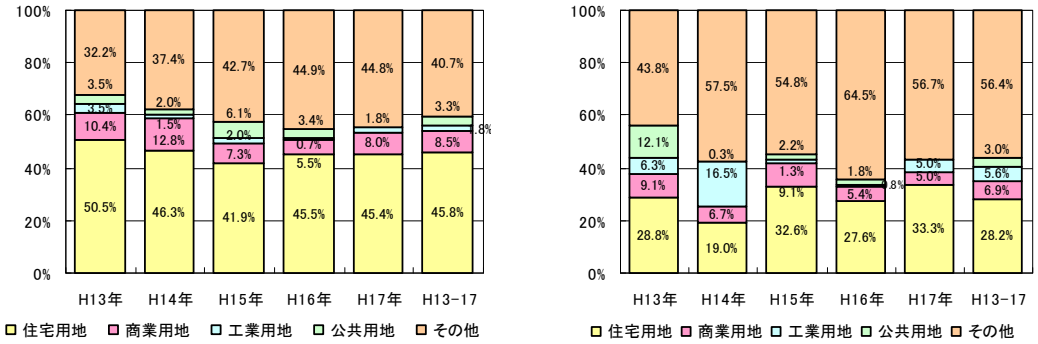


図　用途別農地転用割合の推移（左：件数、右：面積）

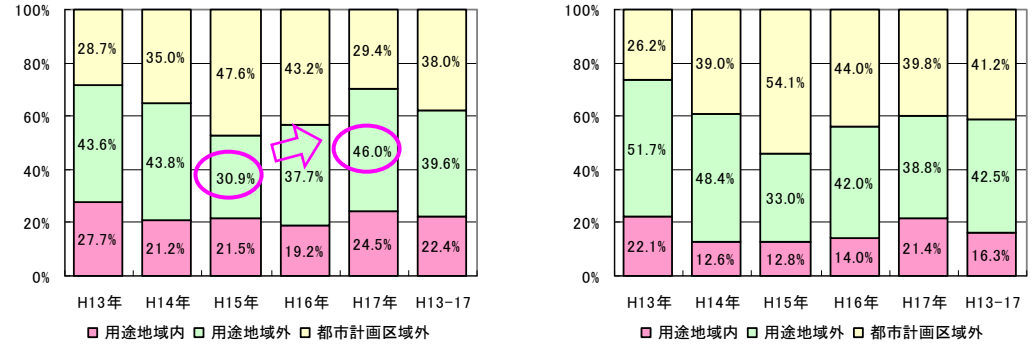


図　農地転用位置別の割合の推移（左：件数、右：面積）

③ 開発行為

- ◆ **住宅開発が６割**
- ◆ **唐津バイパス沿線に集中**

宅地開発等の状況をみると、平成 13 年から平成 17 年の５年間で 34 件、年間 5～8 件の間で推移しています。特に大きな開発行為としては、平成 14 年に唐津市石志に開発された工業団地（4.4ha）、平成 17 年に相知に開発された緑山市営住宅団地（2.7ha）があります。なお、近年においては、平成 19 年より厳木地区において「新産業集積エリア整備事業」として厳木工業団地（約 50ha[有効面積は 28.2ha]）が整備中となっています。（平成 22 年以降分譲開始予定）

また、開発行為が行われた位置をみると、都市計画区域外での開発は、平成 16 年の１件（呼子町小川島）のみです。また、都市計画区域内をみると、用途地域内よりも用途地域外に多く、特に浜玉地域の国道 202 号唐津バイパス沿線に集中しています。

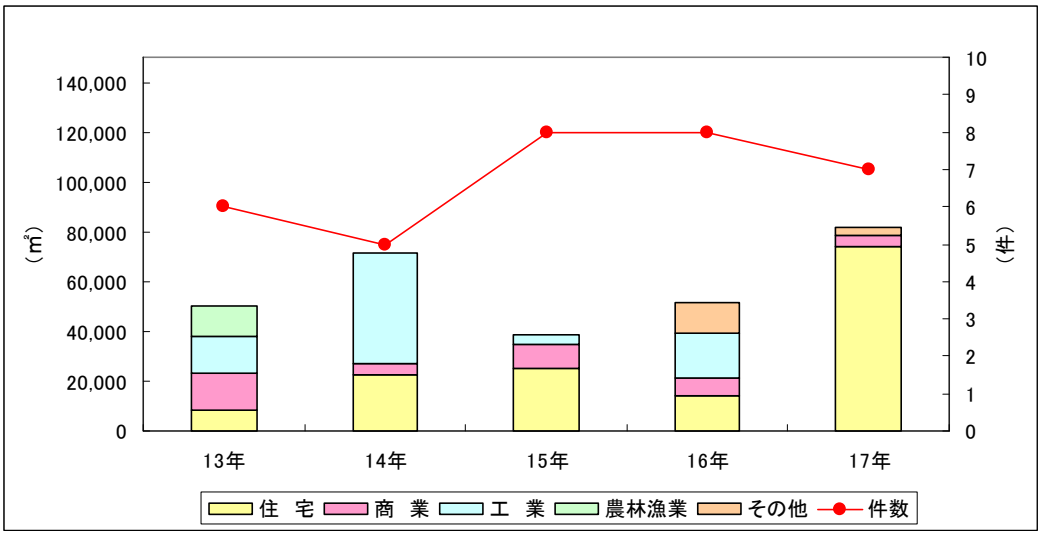


図　用途別開発許可件数、面積の推移

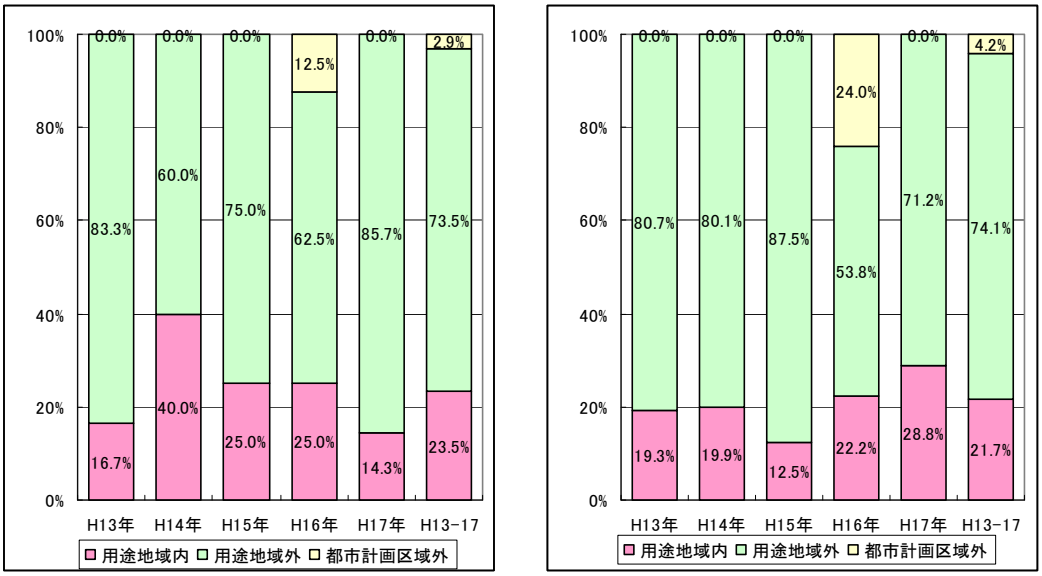


図　開発許可の用途地域内外割合の推移

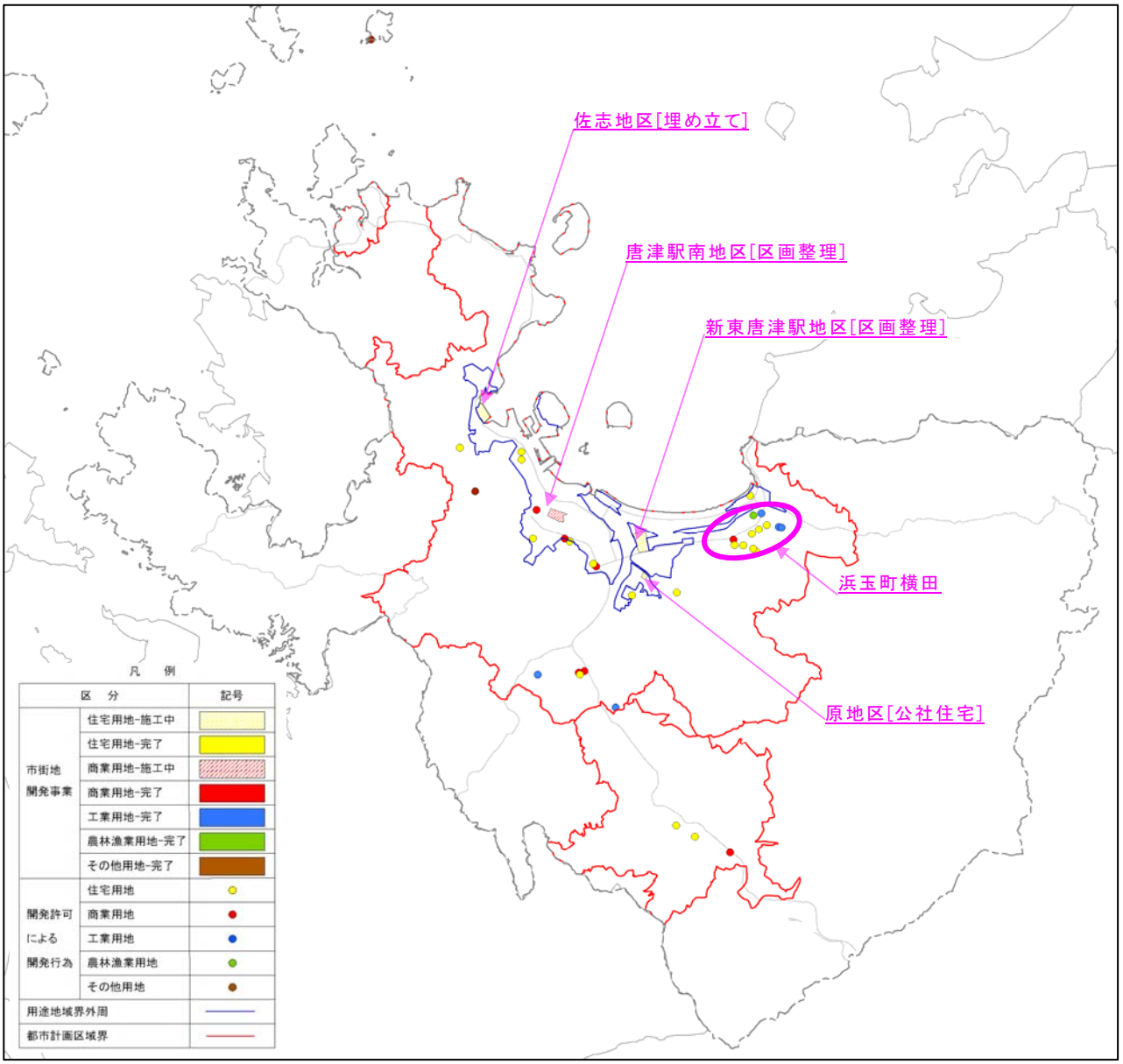


図　H13～17 年　宅地開発等位置図（資料：H18 年都市計画基礎調査）

２－５　都市施設指標

（１）　道路

① 主要道路網

◆　**高規格幹線道路等が現在整備中**
◆　**唐津中心部と各地域とを主要国道が連絡**

本市の交通体系は、高規格道路１路線、地域高規格道路１路線、国道６路線、主要地方道９路線、一般県道 30 路線により構成されています。

福岡市から唐津市内を通り伊万里市へ連絡する国道 202 号、唐津市から佐賀市まで連絡する国道 203 号、唐津市から東松浦半島を通り伊万里市へ連絡する国道 204 号、浜玉から七山へ連絡する国道 323 号を骨格として、それらを補完する形で主要地方道、一般県道等が整備されています。

地形的な制約から沿岸部、山間部において歪曲している路線が多く、また、幅員狭小で歩行者の安全性が十分に確保されていない区間もみられます。

また、本市と福岡都市圏、佐賀都市圏とを結ぶ西九州自動車道、佐賀唐津道路の高規格幹線道路等が現在整備中であり、アクセス道路の整備も含め地域間交流のための基盤整備が急がれています。

表　道路整備状況（その1）　　平成 18 年 4 月 1 日現在

路線名		実延長（m）	改良済		舗装済	
			延長（m）	改良率	延長（m）	舗装率
一般国道（指定区間）		53,785	53,785	100.0%	53,785	100.0%
	202 号	24,703	24,703	100.0%	24,703	100.0%
	203 号	21,848	21,848	100.0%	21,848	100.0%
	497 号	7,234	7,234	100.0%	7,234	100.0%
一般国道（指定区間外）		65,529	65,452	99.9%	65,529	100.0%
	204 号	49,312	49,235	99.8%	49,312	100.0%
	323 号	14,069	14,069	100.0%	14,069	100.0%
	382 号	2,148	2,148	100.0%	2,148	100.0%
主要地方道		77,223	73,750	95.5%	77,223	100.0%
	唐津呼子	11,630	11,630	100.0%	11,630	100.0%
	伊万里畑川内厳木	7,318	7,134	97.5%	7,318	100.0%
	唐津肥前	6,189	6,000	96.9%	6,189	100.0%
	厳木富士	12,456	12,417	99.7%	12,456	100.0%
	相知山内	4,676	4,398	94.1%	4,676	100.0%
	浜玉相知	14,020	12,961	92.4%	14,020	100.0%
	肥前呼子	8,370	7,294	87.1%	8,370	100.0%
	唐津北波多	7,093	6,445	90.9%	7,093	100.0%
	山本波多津	5,471	5,471	100.0%	5,471	100.0%
一般県道		167,485	145,238	86.7%	167,485	100.0%
	鷹島肥前	0	0	－	0	－
	藤川二丈	5,675	5,663	99.8%	5,675	100.0%
	唐津港	694	595	85.7%	694	100.0%
	星賀港	5,543	5,263	94.9%	5,543	100.0%
	高串港	1,850	1,850	100.0%	1,850	100.0%
	唐津停車場	259	259	100.0%	259	100.0%
	鏡山公園	5,153	5,153	100.0%	5,153	100.0%
	今村枝去木	1,610	1,571	97.6%	1,610	100.0%
	半田鬼塚	7,136	6,084	85.3%	7,136	100.0%
	平山相知	4,115	4,115	100.0%	4,115	100.0%
	山崎西相知停車場	1,392	1,187	85.3%	1,392	100.0%
	切木唐津	9,170	8,563	93.4%	9,170	100.0%
	七山厳木	28,550	22,958	80.4%	28,550	100.0%

資料：道路現況表（佐賀県道路課）

表　道路整備状況（その2）

平成 18 年 4 月 1 日現在

路線名		実延長（m）	改良済		舗装済	
			延長（m）	改良率	延長（m）	舗装率
一般県道（つづき）						
	池原古湯	3,383	3,383	100.0%	3,383	100.0%
	妙見満島	3,789	3,789	100.0%	3,789	100.0%
	加倉仮屋港	1,887	1,887	100.0%	1,887	100.0%
	波戸岬	3,620	3,620	100.0%	3,620	100.0%
	鳥巣浜崎停車場	11,259	7,607	67.6%	11,259	100.0%
	名護屋港	1,381	0	0.0%	1,381	100.0%
	川古平山上	6,465	6,183	95.6%	6,465	100.0%
	納所入野	5,394	5,102	94.6%	5,394	100.0%
	千々賀神田	5,802	5,802	100.0%	5,802	100.0%
	板屋厳木	4,905	4,905	100.0%	4,905	100.0%
	八幡岳公園	2,395	0	0.0%	2,395	100.0%
	七山唐津	10,102	6,451	63.9%	10,102	100.0%
	相知唐津浜玉	5,668	3,033	53.5%	5,668	100.0%
	鎮西唐津	14,981	14,981	100.0%	14,981	100.0%
	山崎町切	5,488	5,415	98.7%	5,488	100.0%
	筒井万賀里川	3,985	3,985	100.0%	3,985	100.0%
	虹の松原線	5,834	5,834	100.0%	5,834	100.0%
市道		1,328,568	934,068	70.3%	1,283,280	96.6%
	一級市道	220,500	191,572	86.9%	219,239	99.4%
	二級市道	136,327	99,393	72.9%	135,177	99.2%
	その他	971,741	643,103	66.2%	928,864	95.6%

資料：道路現況表（佐賀県道路課）

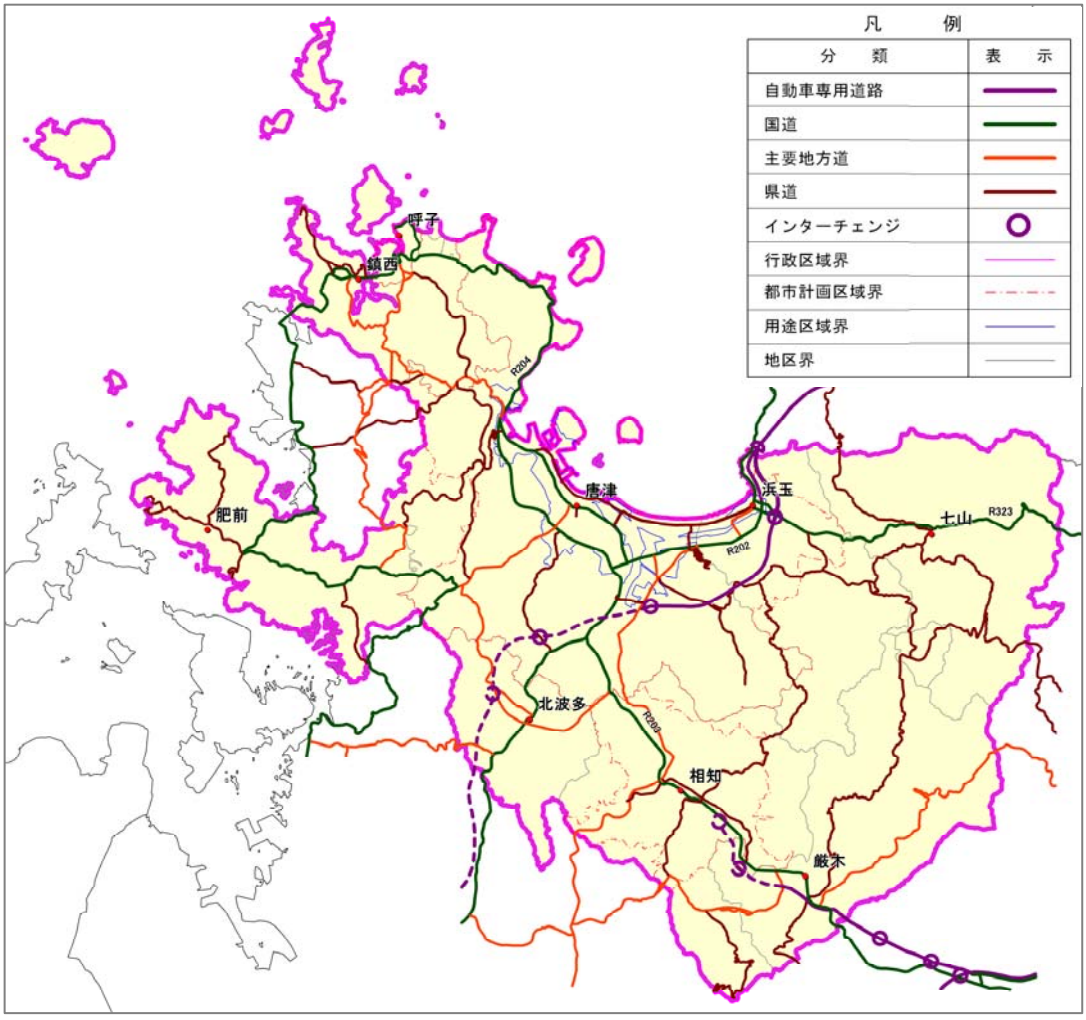


図　管理者別道路網図

② 都市計画道路の整備状況

◆　都市計画道路の整備率は約８割

本市の都市計画道路網は、53 路線、総延長 92,040m が都市計画決定されており、平成 21 年３月 31 日現在、そのうちの 77.3%にあたる 71,281m が整備されています。

表　都市計画道路の整備状況　　平成 21 年 3 月 31 日現在

都市施設名称		都市計画決定延長(m)	幅員(m)	整備状況(m)			整備率
				整備済	改良済	概成	
1.3.27	浜玉唐津線	7,220	23.5	0	7,220	0	100.0%
2.小.1	久保坊中線	500	4.5	500	0	0	100.0%
3.2.2	東唐津久里線	3,950	36	3,950	0	0	100.0%
3.2.28	原鬼塚線	1,380	36.5	0	0	850	0.0%
3.3.1	和多田佐志線	8,200	25	3,580	4,620	0	100.0%
3.3.3	浜崎養母田線	10,690	23	9,740	0	950	91.1%
3.4.4	唐津駅大手口線	290	18	290	0	0	100.0%
3.4.5	大手口佐志線	5,070	18	2,605	0	2,465	51.4%
3.4.6	東唐津西唐津線	4,710	16	4,710	0	0	100.0%
3.4.7	大手口西の浜線	630	16	0	0	550	0.0%
3.4.9	和多田二タ子線	3,350	16	3,350	0	0	100.0%
3.4.10	東城内町田線	1,650	17	900	0	300	54.5%
3.4.11	神田菜畑線	230	16	230	0	0	100.0%
3.4.19	唐津駅赤川線	700	16	700	0	0	100.0%
3.4.22	東唐津駅原線	3,480	16	3,480	0	0	100.0%
3.4.26	唐津駅前線	450	16	450	0	0	100.0%
3.4.29	鏡支線	200	20	200	0	0	100.0%
3.4.101	東町西町線	540	16	540	0	0	100.0%
3.4.102	洲崎大江前線	1,430	16	1,430	0	0	100.0%
3.5.1	東唐津線	860	12	380	0	480	44.2%
3.5.2	呼子環状東線	3,260	12	2,706	0	554	83.0%
3.5.3	呼子環状西線	1,850	12	0	0	1,850	0.0%
3.5.12	大手口和多田線	3,200	12	1,530	0	1,670	47.8%
3.5.13	東唐津浜崎線	5,720	12	1,300	0	4,420	22.7%
3.5.14	坊主町神田線	1,440	12	1,440	0	0	100.0%
3.5.15	東唐津和多田線	1,670	12	1,670	0	0	100.0%
3.5.16	菜畑西の浜線	530	14	0	0	360	0.0%
3.5.17	二タ子佐志線	1,650	12	930	0	720	56.4%
3.5.18	丸宗線	670	12	0	0	670	0.0%
3.5.20	唐津駅菜畑線	950	12	950	0	0	100.0%
3.5.21	新興町町田線	250	12	250	0	0	100.0%
3.5.23	鏡一号線	310	13	310	0	0	100.0%
3.5.24	鏡二号線	290	13	290	0	0	100.0%
3.5.25	唐津駅新興町線	220	12	220	0	0	100.0%
3.6.4	中町中央線	870	12	0	0	260	0.0%
7.6.16	大名小路線	390	13	390	0	0	100.0%
7.7.2	新興町和多田線	2,900	6	2,900	0	0	100.0%
7.7.3	町田線	530	6	530	0	0	100.0%
7.7.4	和多田線	1,870	6	1,870	0	0	100.0%
7.7.5	新興町二タ子1号線	1,500	6	1,500	0	0	100.0%
7.7.6	新興町二タ子2号線	1,470	6	1,470	0	0	100.0%
7.7.7	二タ子一丁目線	180	6	180	0	0	100.0%
7.7.8	新興町線	220	6	220	0	0	100.0%
7.7.9	上町田橋町田線	210	6	210	0	0	100.0%
7.7.10	町田3丁目線	80	6	80	0	0	100.0%
7.7.11	米屋町大名小路線	400	6	130	0	270	32.5%
7.7.12	紺屋町東町線	1,550	6	80	0	1,470	5.2%
7.7.13	紺屋町線	70	6	70	0	0	100.0%
7.7.14	京町町田線	520	6	250	0	270	48.1%
7.7.15	北城内東城内線	880	6	0	0	880	0.0%
7.7.17	刀町材木町線	450	6	350	0	100	77.8%
7.7.18	中町線	310	8	310	0	0	100.0%
8.6.1	鏡3号線	270	8	270	0	0	100.0%
		92,210	－	59,441	11,840	19,089	77.3%

※整備＝(整備済＋改良済)/都市計画決定延長　　資料:都市計画課

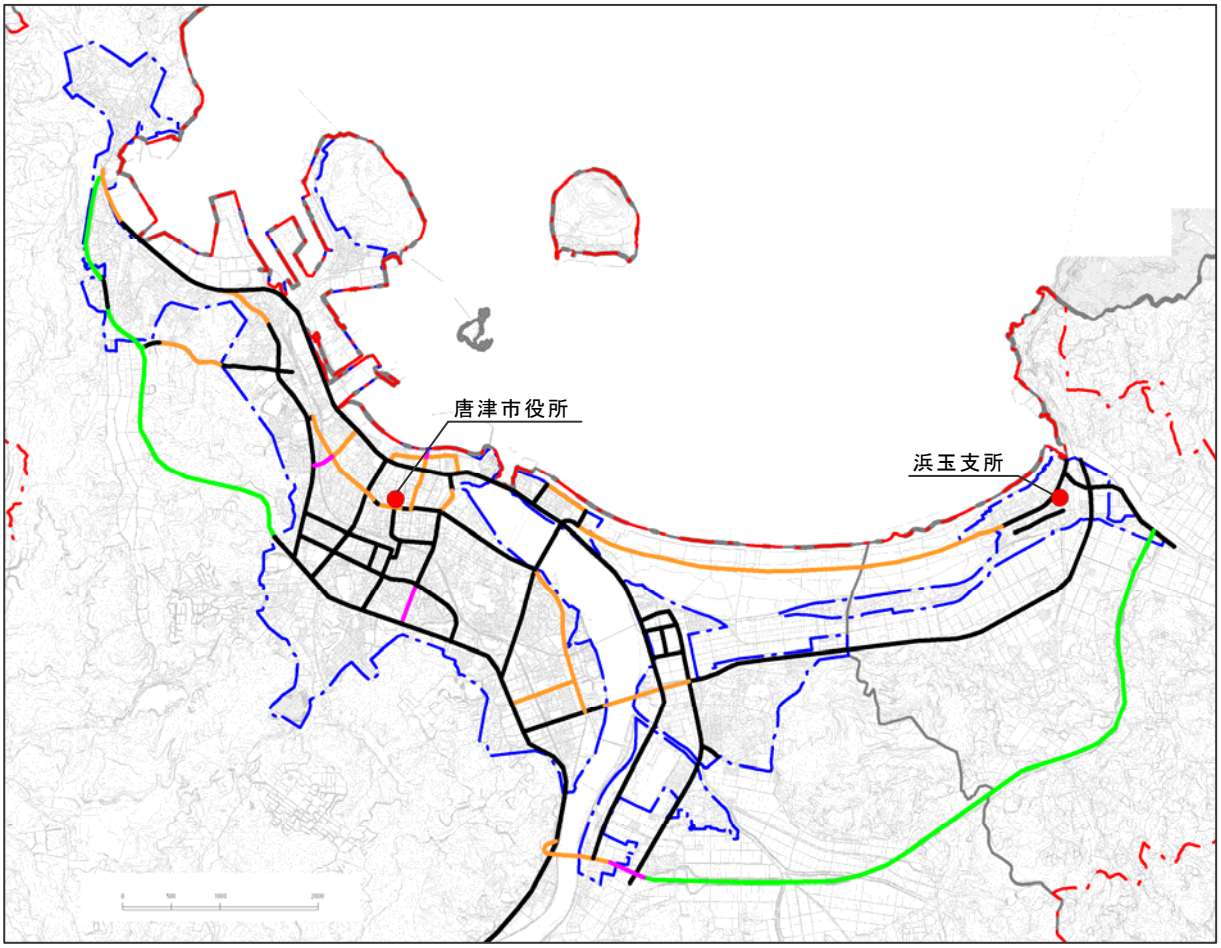


図　都市計画道路整備状況　唐津・浜玉（平成 21 年 3 月）

分　類		表　示
都市計画道路	整備済	
	改良済	
	概成済	
	未整備	
行政区域界		
都市計画区域界		
用途区域界		
地区界		

（２）　交通体系

◆　**交通量（車）が増加する一方、鉄道利用者数は減少傾向**
◆　**交通手段は、車の依存率が高い**

① 交通量（主要道路）

市街地部を通過する国道 202 号、204 号、多久市へ伸びる国道 203 号、および伊万里市へ伸びる国道 202 号は、平均 1 万台以上の交通量があり、増加傾向にあります。また、市街地部では朝夕の渋滞が発生している箇所も見られます。

② 鉄道

本市の鉄道網は、唐津駅を基点として、JR 筑肥線が海岸沿いに福岡市まで、松浦川沿いに伊万里市まで通じ、また JR 唐津線が佐賀市まで、佐賀市から長崎本線で鳥栖市まで通じて主要都市を結んでいます。

唐津駅の一日平均の乗降客数は、平成 16 年現在約 4,300 人であり、近年の動向は年々減少傾向にあります。

③ バス路線状況

唐津市中心部に位置するバスセンターは、周辺部から街なかの学校、病院へ通学・通院する人たちの行動起点となっており、また、福岡方面への通勤起点ともなっています。近年の動向としては、高速バスの市場規模が市内・周辺部のバス需要を上回る状況となっています。

④ 交通手段

交通手段の状況をみると、「自動車」を利用する方が全体の６割強と最も多く、平成 2 年から 14 ポイント増加しています。一方において、「鉄道」、「バス」の公共交通機関の利用率は約１割と、平成２年から６ポイント減少しています。

また、内閣府の調査結果より高齢者の外出手段をみると、「徒歩」が約 6 割と最も多く、「自分で運転する自動車」が次いで多くなっています。

交通手段としては、車への依存率が高い状況となっています。

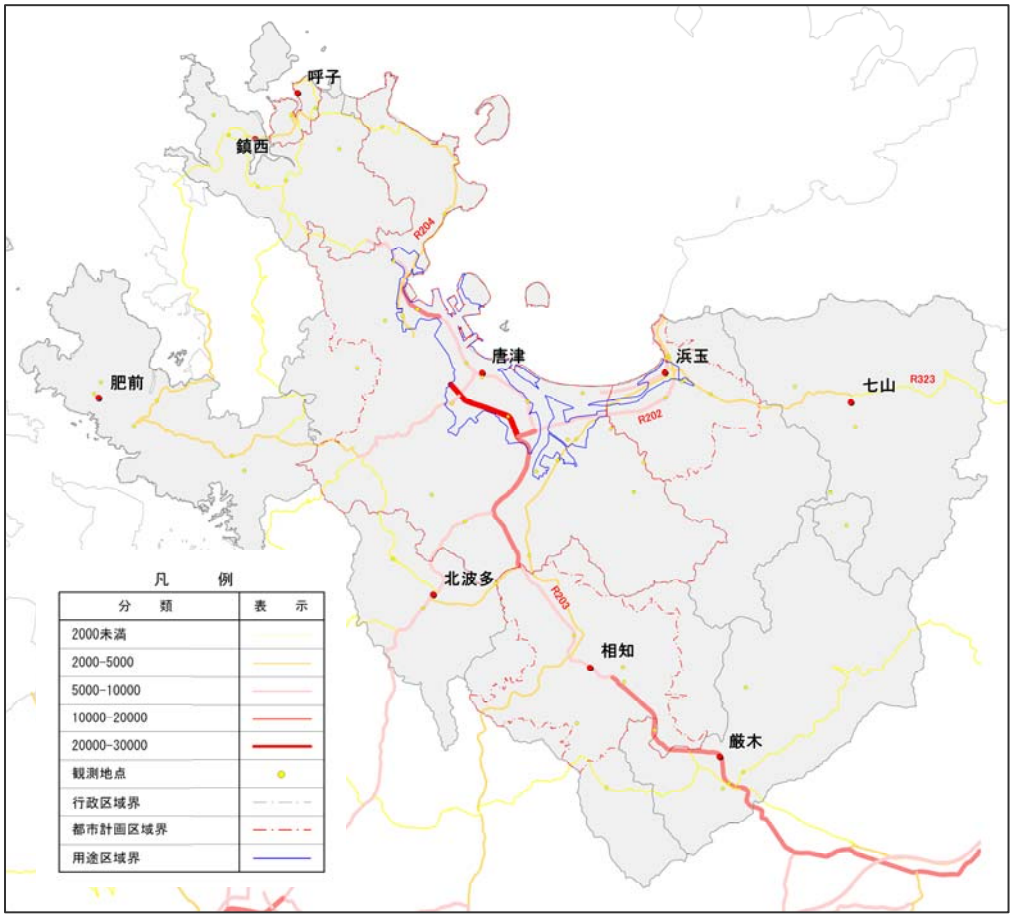


図　主要道路の交通量（S63 年：道路交通センサス）

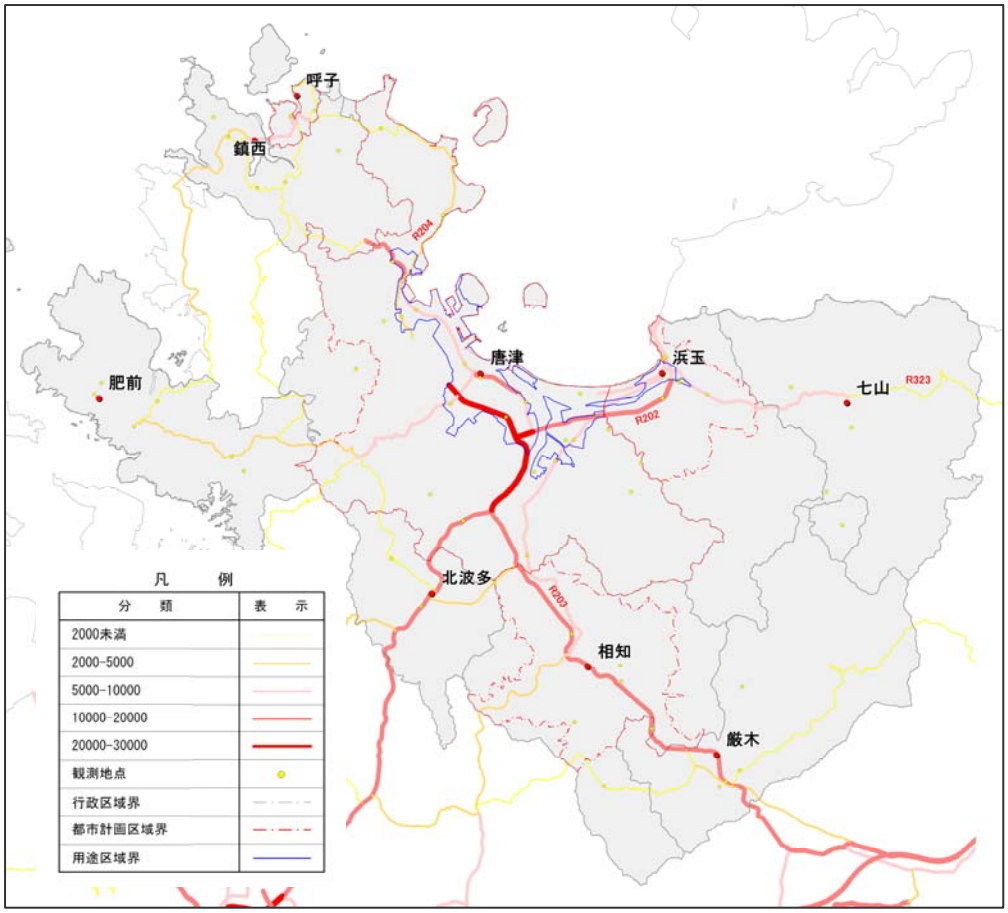


図　主要道路の交通量（H9 年：道路交通センサス）

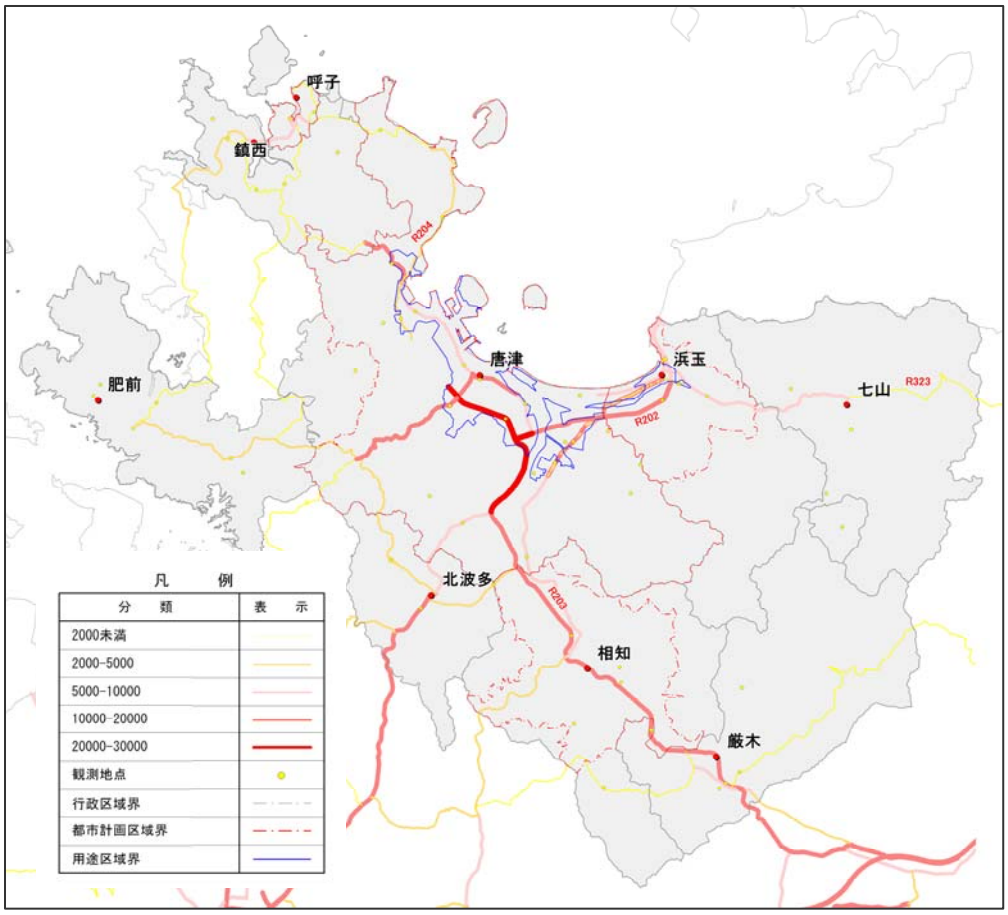


図　主要道路の交通量（H17 年：道路交通センサス）

表　国道、主要地方道の交通量の推移

路線名	観測地点名	12 時間交通量					
		S63 年（台）	H2 年（台）	H6 年（台）	H9 年（台）	H11 年（台）	H17 年（台）
国道 202 号	唐津市浜玉町浜崎	5,514	6,329	6,043	7,069	6,567	7,186
〃　（二丈浜玉有料道路）	唐津市浜玉町大字渕上字小浜上　魚見台駐車場	2,792	4,322	5,416	8,429	6,543	7,925
〃	唐津市浜玉町	9,135	10,941	14,628	19,164	17,298	19,399
〃	唐津市海土町	8,273	7,515	6,024	6,175	5,623	5,750
〃	唐津市鬼塚	19,265	21,127	23,185	25,706	23,047	24,077
〃	唐津市千々賀	7,971	9,225	10,095	10,979	10,557	9,870
〃	唐津市北波多徳須恵	8,464	9,155	10,034	11,766	11,348	12,292
国道 203 号	唐津市山本町	11,714	12,389	12,972	14,136	13,887	13,849
〃	唐津市相知町山崎	9,873	10,789	14,431	16,373	16,137	13,103
〃	唐津市厳木町本山	11,684	12,124	13,239	15,375	14,283	14,472
〃	唐津市厳木町岩屋		－	－	－	－	
〃	唐津市厳木町牧瀬	11,684	12,124	13,239	12,189	10,626	10,902
〃	唐津市厳木町浪瀬	－	－	－	3,573	3,165	5,860
国道 204 号	唐津市大名小路 1924　柳堀広場前	7,639	8,258	13,538	13,597	12,236	11,958
〃	唐津市和多田西山 3-41	20,652	21,712	24,983	26,824	28,633	27,809
〃	唐津市朝日町 964-1	7,639	8,258	9,784	8,945	8,886	8,069
〃	唐津市八幡町 794-8	15,584	15,223	17,598	9,365	9,241	5,806
〃	唐津市佐志南 3757-6	－	－	－	－	－	－
〃	唐津市相賀 2465-3	3,342	3,094	3,564	3,774	3,701	3,949
〃	唐津市屋形石 1335-2　JA屋形石支所横	1,325	1,256	1,376	1,930	1,354	1,510
〃	唐津市呼子町殿の浦　上場農協倉庫駐車場	3,034	3,866	5,152	5,327	5,529	5,116
〃	唐津市鎮西町名護屋 3458	1,443	1,332	650	2,458	2,221	2,545
〃	唐津市肥前町梅崎　梅崎公民館前	2,171	1,731	2,079	1,925	2,019	1,952
〃	唐津市肥前町万賀里川	3,464	3,701	4,011	4,485	4,630	4,713
主要地方道　唐津呼子線	唐津市浦 6018	9,243	9,567	10,168	11,583	11,785	12,634
〃	唐津市鎮西町野元　野元公民館前	664	796	667	593	501	535
〃　伊万里畑川内厳木線	唐津市相知町平山上字向野 970-4　農業用倉庫前	890	961	1,125	1,175	1,226	1,080
〃　唐津肥前線	唐津市神田 5　JA唐津支所前	6,346	6,463	11,000	9,916	11,676	11,560
〃　厳木富士線	唐津市厳木町広瀬字中島　中島下バス停付近	1,436	1,765	1,781	1,926	2,032	1,651
〃　浜玉相知線	唐津市浜玉町浜崎　小崎橋付近	4,986	5,665	8,013	9,905	10,408	3,397
〃	唐津市鏡　鏡郵便局前	4,986	5,665	8,013	9,905	10,408	7,403
〃	唐津市鏡 2870-1	－	－	－	－	－	－
〃	唐津市原 937-1	4,986	5,665	8,013	9,905	10,408	11,628
〃	唐津市双水 2771　双水公民館前	3,064	2,606	5,157	8,157	7,133	7,712
〃　肥前呼子線	唐津市鎮西町石室	－	－	－	－	－	－
〃	唐津市鎮西町下石室 3654	849	434	362	476	469	516
〃　唐津北波多線	唐津市北波多上平野 3288-1	1,380	1,444	1,629	1,634	1,790	2,425
〃　山本波多津線	唐津市相知町弁田部 2442-8　坊中バス停付近	3,353	3,384	3,748	3,898	3,905	4,490

資料：道路交通センサス

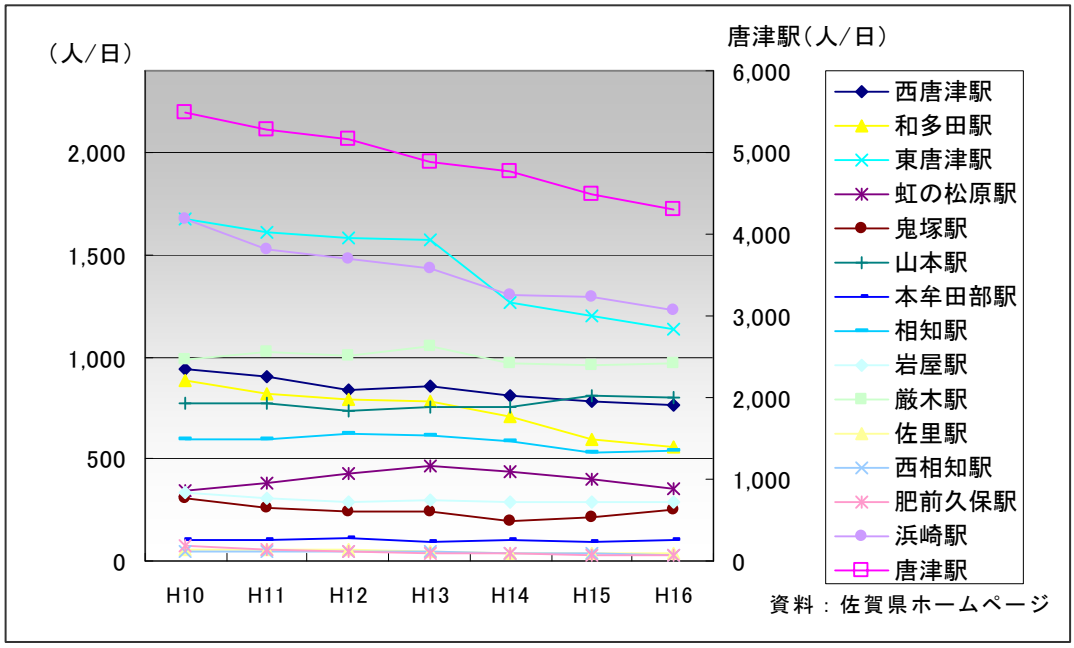


図　鉄道乗降客数の推移

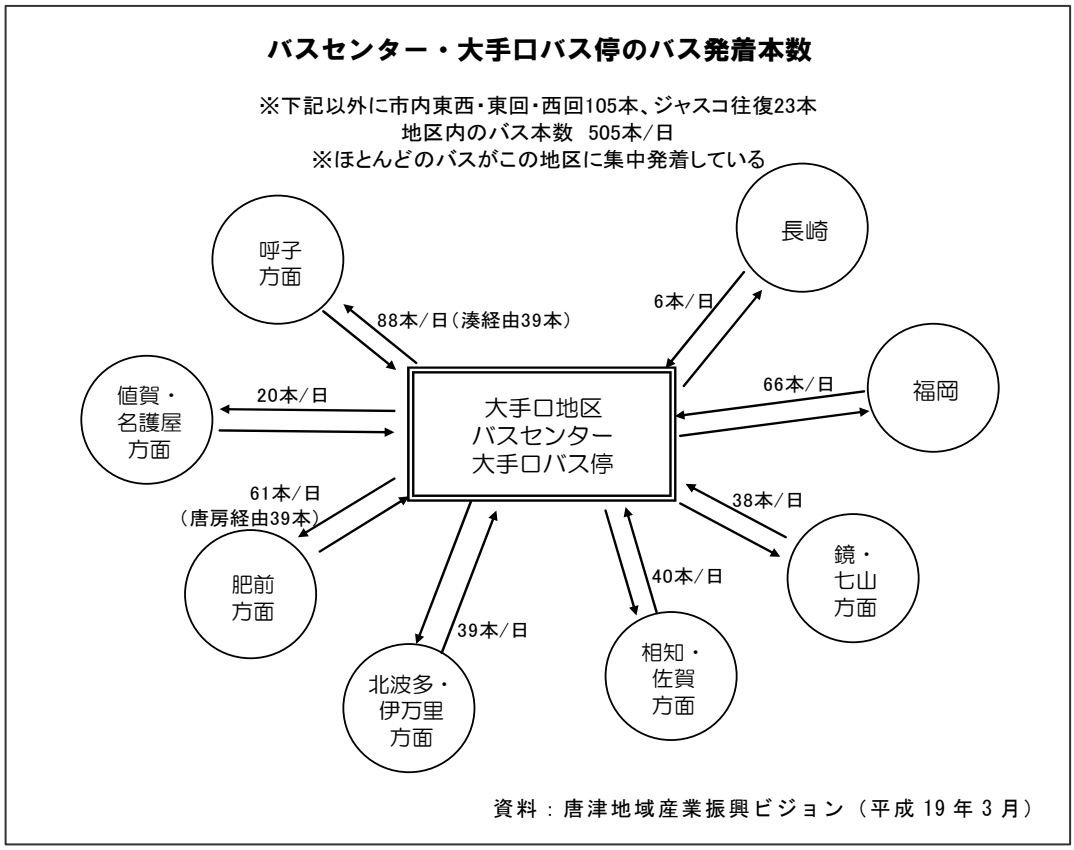


図　バスの発着状況

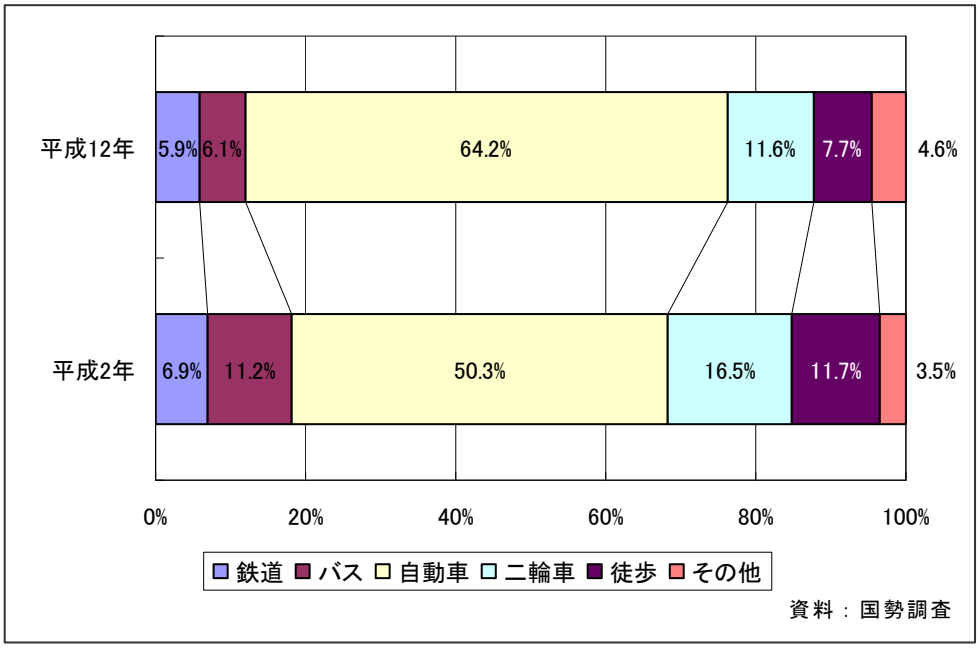


図　利用交通手段（唐津市）

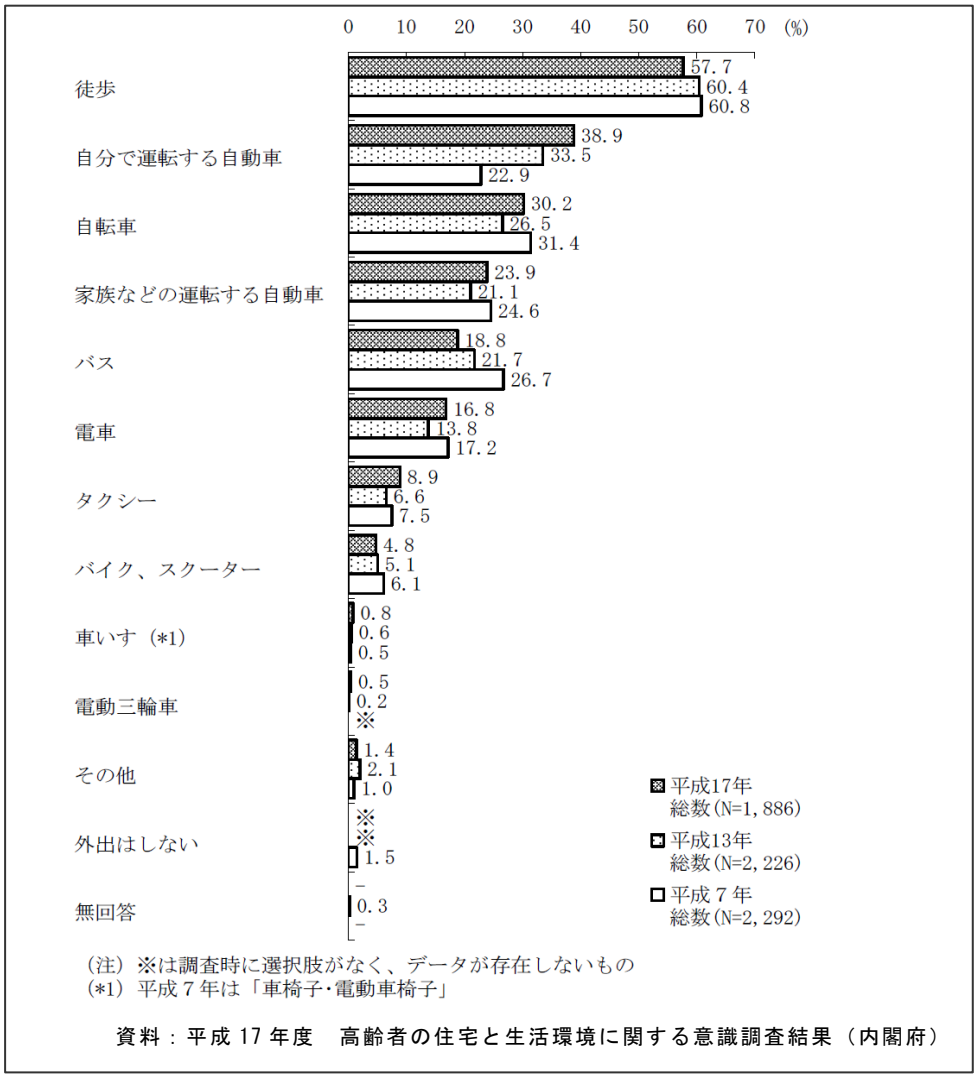


図　高齢者の外出手段（全国）

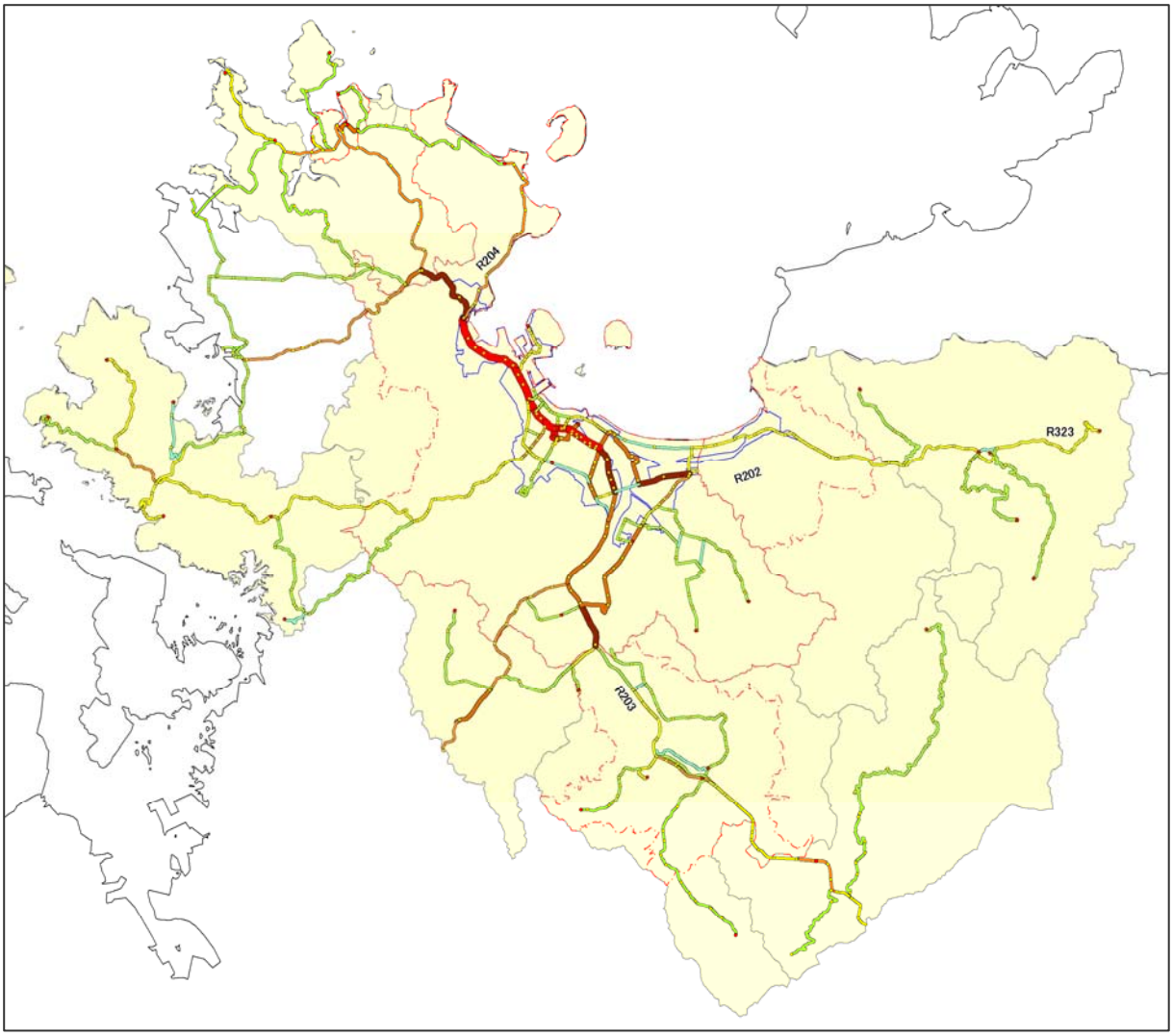


図　バス路線網

凡　　例

分　類		表　示
運行回数	１～５	
	５～１５	
	１５～３０	
	３０～５０	
	５０～１００	
	１００～１５０	
	１５０～３５０	
バス起点・終点		
バス停留所		
行政区域界		
都市計画区域界		
用途地域界		

（３）　公園緑地

① 都市公園の状況

- ◆　都市計画公園の整備率は約７割
- ◆　唐津地域に集中
- ◆　身近な公園の整備・機能充実が課題

本市には、街区公園 22 箇所、近隣公園３箇所、地区公園１箇所、総合公園１箇所、運動公園１箇所、風致公園４箇所、都市緑地５箇所の計 37 箇所の都市計画決定された公園・緑地があります。そのうち、供用開始された公園・緑地は 32 箇所であり、整備率は 48.6%（別事業で整備済の八幡町公園、鏡山公園を含めると 34 箇所、69.7%）となっています。また、都市計画公園以外にも、児童遊園、子供の遊び場などの公園が 194 箇所整備されています。

公園・緑地の分布状況をみると、唐津地域に集中しています。また、市民アンケートでは、「身近な公園」に関する不満が高く、公園の数だけでなく公園自体の機能充実も課題となっています。

表　都市公園一覧

（単位：ha）

No	種別	都市施設名称	都市計画決定面積	整備面積（H16.3.31）	整備率
1	街区公園	栄町児童公園	0.07	0.07	100.0%
2	〃	二タ子児童公園	0.43	0.43	100.0%
3	〃	妙見児童公園	0.23	0.20	87.0%
4	〃	八幡町児童公園	0.10	－	0.0%
5	〃	北城内児童公園	0.10	0.10	100.0%
6	〃	熊原児童公園	0.23	0.17	73.9%
7	〃	西新興町児童公園	0.24	0.16	66.7%
8	〃	橋本児童公園	0.16	0.16	100.0%
9	〃	旭が丘児童公園	0.24	0.24	100.0%
10	〃	町田児童公園	0.12	0.12	100.0%
11	〃	大名小路児童公園	0.20	0.20	100.0%
12	〃	南城内児童公園	0.09	0.09	100.0%
13	〃	山崎団地児童公園	0.32	0.27	84.4%
14	〃	西大島児童公園	0.11	0.11	100.0%
15	〃	桜町児童公園	0.10	0.10	100.0%
16	〃	鏡児童公園	0.11	0.11	100.0%
17	〃	佐志児童公園	0.29	0.29	100.0%
18	〃	中山みずべの公園	0.63	0.63	100.0%
19	〃	桜馬場児童公園	0.08	0.08	100.0%
20	〃	和多田ふれあい公園	0.48	0.48	100.0%
21	〃	唐房公園	0.23	－	0.0%
22	〃	浦の川児童公園	0.11	0.11	100.0%
23	近隣公園	八幡町公園	3.00	※	0.0%
24	〃	長松公園	1.10	1.10	100.0%
25	〃	ひばりが丘公園	2.40	－	0.0%
26	地区公園	尾の上公園	9.20	8.30	90.2%
27	総合公園	松浦河畔公園	30.60	20.40	66.7%
28	運動公園	体育の森公園	13.40	8.64	64.5%
29	風致公園	東の浜海浜公園	6.50	4.40	67.7%
30	〃	舞鶴海浜公園	19.70	3.70	18.8%
31	〃	鳥島自然公園	5.50	5.40	98.2%
32	〃	鏡山公園	23.00	※	0.0%
33	都市緑地	松浦河畔緑地	1.00	0.60	60.0%
34	〃	大久保緑地	1.50	1.50	100.0%
35	〃	中瀬緑地	0.60	0.60	100.0%
36	〃	二の門堀緑地	1.20	1.20	100.0%
37	〃	民族資料館緑地	0.08	0.08	100.0%
	合計		123.45	60.04	48.6%

資料：2004 佐賀県の都市計画（資料編）

※八幡町公園、鏡山公園は、別事業にて整備済（両公園を含めると整備率は 69.7%）

② その他の公園

表　その他公園一覧

□本庁所管分　（平成 19 年 10 月 1 日現在）

番号	種別		箇所数		面積合計(㎡)	総面積(㎡)
2	その他の公園	市民の森	1	34	47,005	69,809
		ダム公園	1		8,335	
		団地公園	18		9,584	
		ポケットパーク	11		2,969	
		その他	3		1,916	
3	児童遊園		54	54	53,739	53,739
4	子供の遊び場		29	29	7,377	7,377
5	玄海国定公園		4	4	318,859	318,859
合計			121	121	449,784	449,784

□浜玉支所所管分

番号	種別		箇所数		面積合計(㎡)	総面積(㎡)
2	その他の公園	団地公園	9	11	1,920	2,158
		ポケットパーク	2		238	
3	児童遊園		2	2	3,391	3,391
合計			13	13	5,549	5,549

□相知支所所管分

番号	種別		箇所数		面積合計(㎡)	総面積(㎡)
2	その他の公園	団地公園	1	1	3,600	3,600
合計			1	1	3,600	3,600

□北波多支所所管分

番号	種別		箇所数		面積合計(㎡)	総面積(㎡)
2	その他の公園	その他	1	1	1,638	1,638
3	児童遊園		15	15	16,589	16,589
6	普通公園		3	3	17,925	17,925
合計			19	19	36,152	36,152

□肥前支所所管分

番号	種別	箇所数		面積合計(㎡)	総面積(㎡)
3	児童遊園	18	18	9,442	9,442
6	普通公園	1	1	3,000	3,000
合計		19	19	12,442	12,442

□鎮西支所所管分

番号	種別	箇所数		面積合計(㎡)	総面積(㎡)
4	子供の遊び場	14	14	34,590	34,590
合計		14	14	34,590	34,590

□呼子支所所管分

番号	種別	箇所数		面積合計(㎡)	総面積(㎡)
3	児童遊園	7	7	1,612	1,612
合計		7	7	1,612	1,612

資料：庁内資料

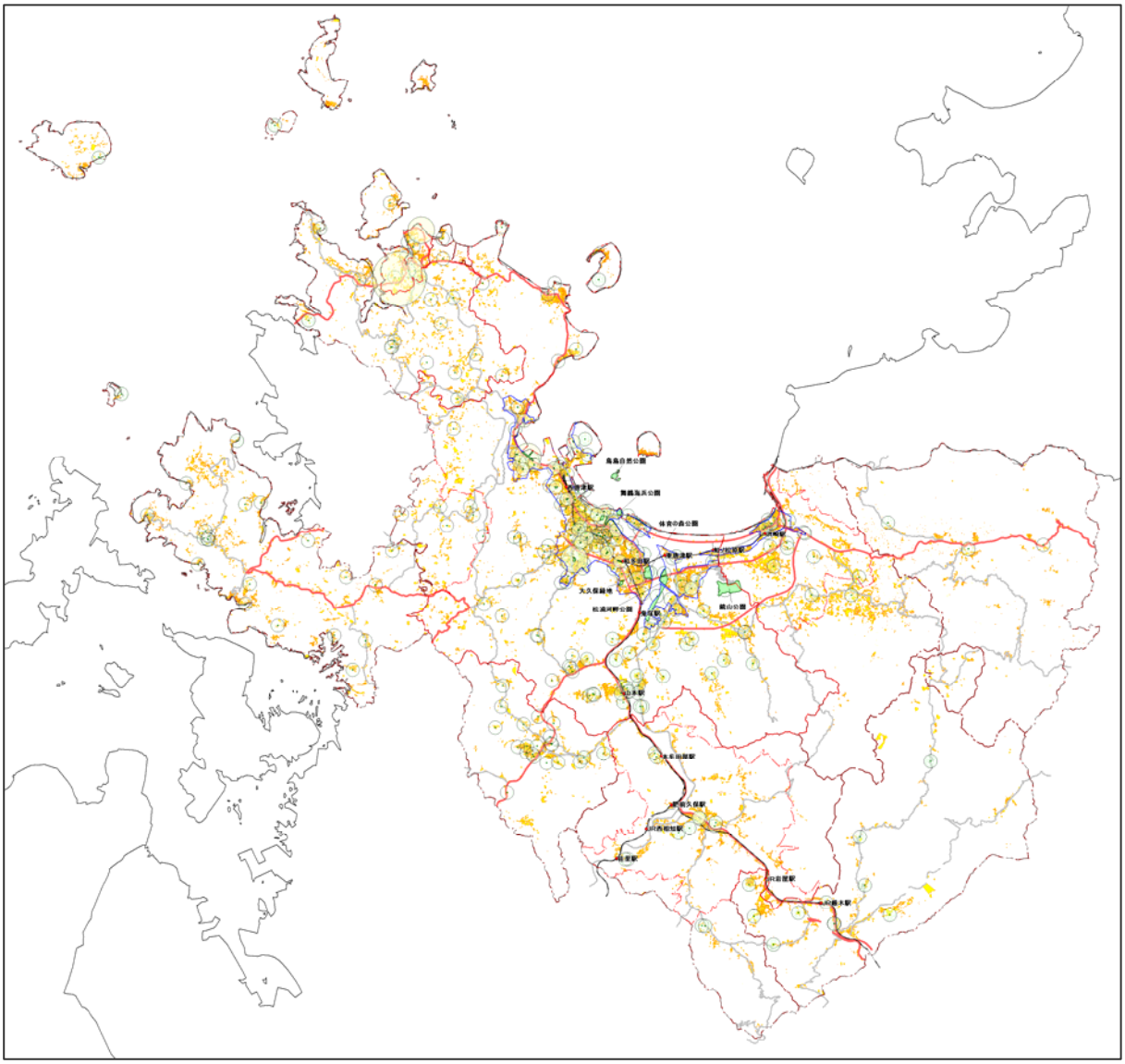
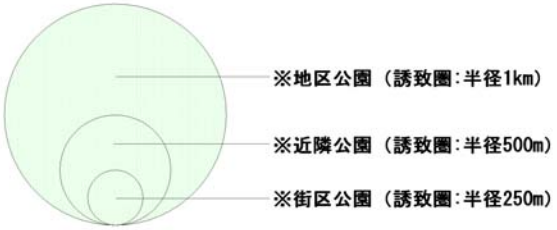


図　都市計画公園等分布図

凡　　例

分　　類	表　　示
都市計画公園	
その他の公園（児童遊園等）	
宅　　地	
国　　道	
県道、主要地方道	
行政区域界	
都市計画区域界	
用途区域界	
地区界	



（４） 下水道

- ◆ 汚水処理人口普及率は約８割
- ◆ 唐津、北波多の普及率は高いが、その他沿岸部、山間部の普及率は低い

本市の汚水処理状況をみると、唐津、浜玉、呼子の都市計画区域の一部においては公共下水道により処理されており、その他の地域においては、特定環境保全公共下水道、農・漁業集落排水及び合併浄化槽により処理されています。

汚水処理の人口普及率をみると、全市平均で 78.2%となっていますが、普及率が平均より高いのは唐津（93.9%）、北波多（91.2%）のみであり、その他の地域での普及率は低く、特に厳木（23.4%）、肥前（27.9%）、鎮西（42.7%）、呼子（39.7%）などの沿岸部や山間部において低くなっています。

表 単独公共下水道の整備状況

平成21年3月31日現在

処理区名	全体計画 面積(ha)	認可区域 面積(ha)	整備済み 面積(ha)	整備率 (面積)	区域内 行政人口	区域内 整備人口	整備率 (人口)	水洗化 人口	水洗化率 (人口)	年度 着手	年度 供用
唐津処理区	汚水 1,678 雨水 1,678	汚水 1,591 雨水 1,586	1,364.3	81.3%	63,859	60,233	94.3%	53,774	89.3%	S.52	S.58
浜玉処理区	汚水 249 雨水 121	汚水 249 雨水 121	169.1	67.9%	8,269	6,528	78.9%	5,240	80.3%	S.63	H. 6
呼子処理区	汚水 90	汚水 56	0.0	0.0%	3,472	0	0.0%	0	0.0%	H.18	未

資料：庁内資料（下水道管理課）

表 特定環境保全公共下水道の整備状況

平成21年3月31日現在

処理区名	全体計画 面積(ha)	認可区域 面積(ha)	整備済み 面積(ha)	整備率 (面積)	区域内 行政人口	区域内 整備人口	整備率 (人口)	水洗化 人口	水洗化率 (人口)	年度 着手	年度 供用
唐津処理区 （山本・石志地区）	汚水 119 雨水 119	汚水 116 雨水 115	96.9	81.4%	3,594	3,594	100.0%	2,960	82.4%	H.10	H.13
相知処理区	汚水 223 雨水 166	汚水 223 雨水 166	184.5	82.7%	6,113	4,816	78.8%	3,334	69.2%	H. 5	H. 9
徳須恵処理区	汚水 147	汚水 147	109.5	74.5%	3,892	3,635	93.4%	2,286	62.9%	H.10	H.15
名護屋処理区	汚水 38	汚水 38	0.0	0.0%	1,813	0	0.0%	0	0.0%	H.19	未
厳木処理区	汚水 115	汚水 0	0.0	0.0%	3,408	0	0.0%	0	0.0%	計画中	計画中

資料：庁内資料（下水道管理課）

表 汚水処理人口普及状況

（平成 21 年 3 月 31 日現在）

地域	人口普及率
唐 津	93.9%
浜 玉	73.4%
厳 木	23.4%
相 知	66.8%
北波多	91.2%
肥 前	27.9%
鎮 西	42.7%
呼 子	39.7%
七 山	86.2%
計	78.2%

資料：庁内資料（下水道管理課）

※公共下水道等・農・漁業集落排水、合併浄化槽の合計

表　農・漁業集落排水の整備状況

平成 21 年 3 月 31 日現在

地区名	処理区		計画処理面積（ha）	整備済面積（ha）	面積整備率	整備人口（人）	水洗化人口（人）	水洗化率	整手法	備考
唐　津	双　水		22.7	22.7	100.0%	1,119	1,119	100.0%	農業	完了
	後川内		13.5	13.5	100.0%	270	249	92.2%	農業	完了
	畑島・山田・千々賀		80.2	80.2	100.0%	1,886	1,638	86.9%	農業	完了
	竹木場・唐の川		28.8	28.8	100.0%	547	351	64.2%	農業	完了
	相　賀		25.5	25.5	100.0%	706	634	89.8%	農業	完了
	湊		40.6	40.6	100.0%	1,990	1,089	54.7%	農業	完了
	久　里		35.9	35.9	100.0%	967	347	35.9%	農業	完了
	神集島		22.7	22.7	100.0%	524	513	97.9%	漁業	完了
	高　島		13.5	13.5	100.0%	345	302	87.5%	漁業	完了
	小計	9	283.4	283.4	100.0%	8,354	6,242	74.7%		
浜　崎	渕　上		9.8	9.8	100.0%	344	290	84.3%	農業	完了
	小計		9.8	9.8	100.0%	344	290	84.3%		
厳　木	天　川		13.2	13.2	100.0%	221	181	81.9%	農業	完了
	小計		13.2	13.2	100.0%	221	181	81.9%		
北波多	行合野		8.4	8.4	100.0%	166	163	98.2%	農業	完了
	志　気		10.1	10.1	100.0%	210	101	48.1%	農業	完了
	小計		18.5	18.5	100.0%	376	264	70.2%		
肥　前	星　賀		17.9	0.0	0.0%	0	0	0.0%	農業	計画
	向　島		0.7	0.7	100.0%	87	87	100.0%	漁業	完了
	駄　竹		4.8	4.8	100.0%	254	249	98.0%	漁業	完了
	京　泊		2.7	2.7	100.0%	200	156	78.0%	漁業	完了
	菖　津		7.9	7.9	100.0%	302	66	21.9%	漁業	完了
	晴　気		5.4		0.0%	0	0	0.0%	漁業	計画
	高　串		28.7		0.0%	0	0	0.0%	漁業	計画
	大浦浜		4.2		0.0%	0	0	0.0%	漁業	計画
	小計		72.3	16.1	22.3%	843	558	66.2%		
鎮　西	加唐島		11.0	11.0	100.0%	170	170	100.0%	漁業	完了
	波　戸		18.0	18.0	100.0%	488	413	84.6%	漁業	完了
	串　浦		18.0	18.0	100.0%	284	188	66.2%	漁業	完了
	馬渡島		45.5	45.5	100.0%	374	262	70.1%	漁業	完了
	松　島		2.0	2.0	100.0%	72	67	93.1%	漁業	完了
	大　泊		3.0	3.0	100.0%	21	21	100.0%	漁業	完了
	小計		97.5	97.5	100.0%	1,409	1,121	79.6%		
呼　子	加部島		17.8	0.0	0.0%	504	0	0.0%	農業	整備中
	小　友		7.0	7.0	100.0%	277	277	100.0%	漁業	完了
	小川島		92.0	92.0	100.0%	513	465	90.6%	漁業	完了
	小計		116.8	99	84.8%	1294	742	57.3%		
七　山	七山中央		47.6	47.6	100.0%	1,205	1,035	85.9%	農業	完了
	小計		47.6	47.6	100.0%	1,205	1,035	85.9%		
合計		31	659.1	585.1	88.8%	14,046	10,433	74.3%		

資料：庁内資料（下水道管理課）

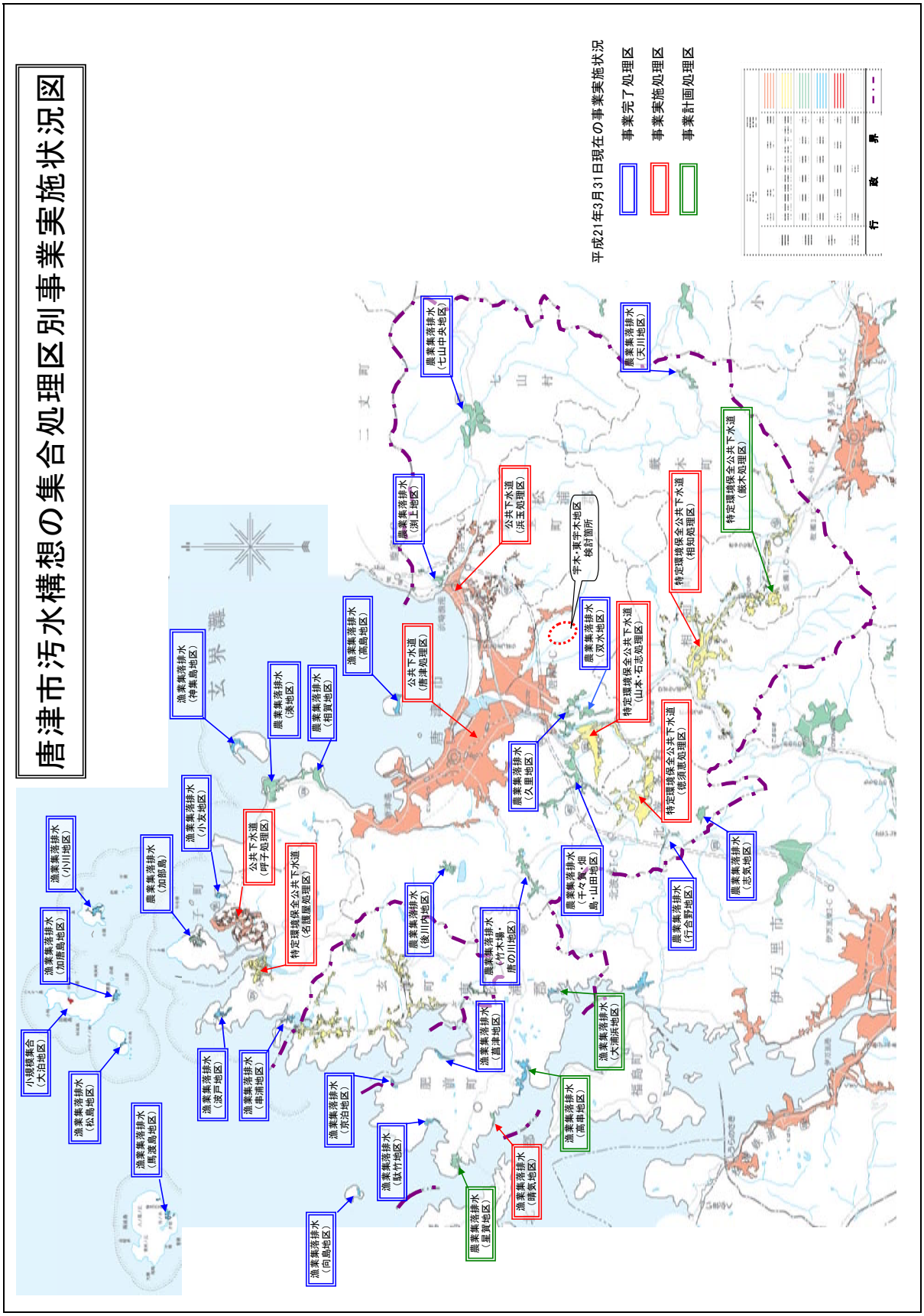


図　公共下水道、農・漁業集落排水等整備状況

２－６　その他の特徴的な要素

（１）　自然環境・景観

◆　玄海国定公園、天山県立自然公園に指定された豊かな自然環境
◆　歴史的町並みや

本市は、虹の松原をはじめとする玄海国定公園に指定された美しい海岸線や、県立自然公園に指定された背振・天山山系など、恵まれた自然環境を有しています。また、唐津市中心部の城内地区の景観や呼子の町並みなど、

また、古来より大陸の玄関口として栄えてきており、唐津焼をはじめとする伝統工芸や、国の重要無形文化財に指定されている唐津くんちの曳山行事をはじめとした祭り、佐用姫伝説、武寧王生誕地である加唐島など、各地に伝統的で多彩な文化や歴史などが多数息づいています。

これら資源を後世に残していくとともに、地域間交流のために今後とも利活用していく必要があります。

（２）　防災等

◆　急傾斜地崩壊危険区域、地すべり指定区域が呼子地域で特に密集

本市には、市街地周辺部をはじめ、山岳・丘陵地の各所で急傾斜地崩壊危険区域、地すべり指定区域が指定され、開発行為が規制されています。特に呼子地域においては密集しており、今後とも治山事業などの防災対策を図っていく必要があります。

また、松浦川においては、堤防が決壊した際の水深程度や避難場所等を表した「洪水ハザードマップ」が策定・配布されており、住民への防災意識の啓発をおこなっています。

表　災害危険箇所数

区分	箇所数
急傾斜地崩壊危険区域	131 箇所
地すべり指定区域	17 箇所

資料：唐津土木事務所管内図

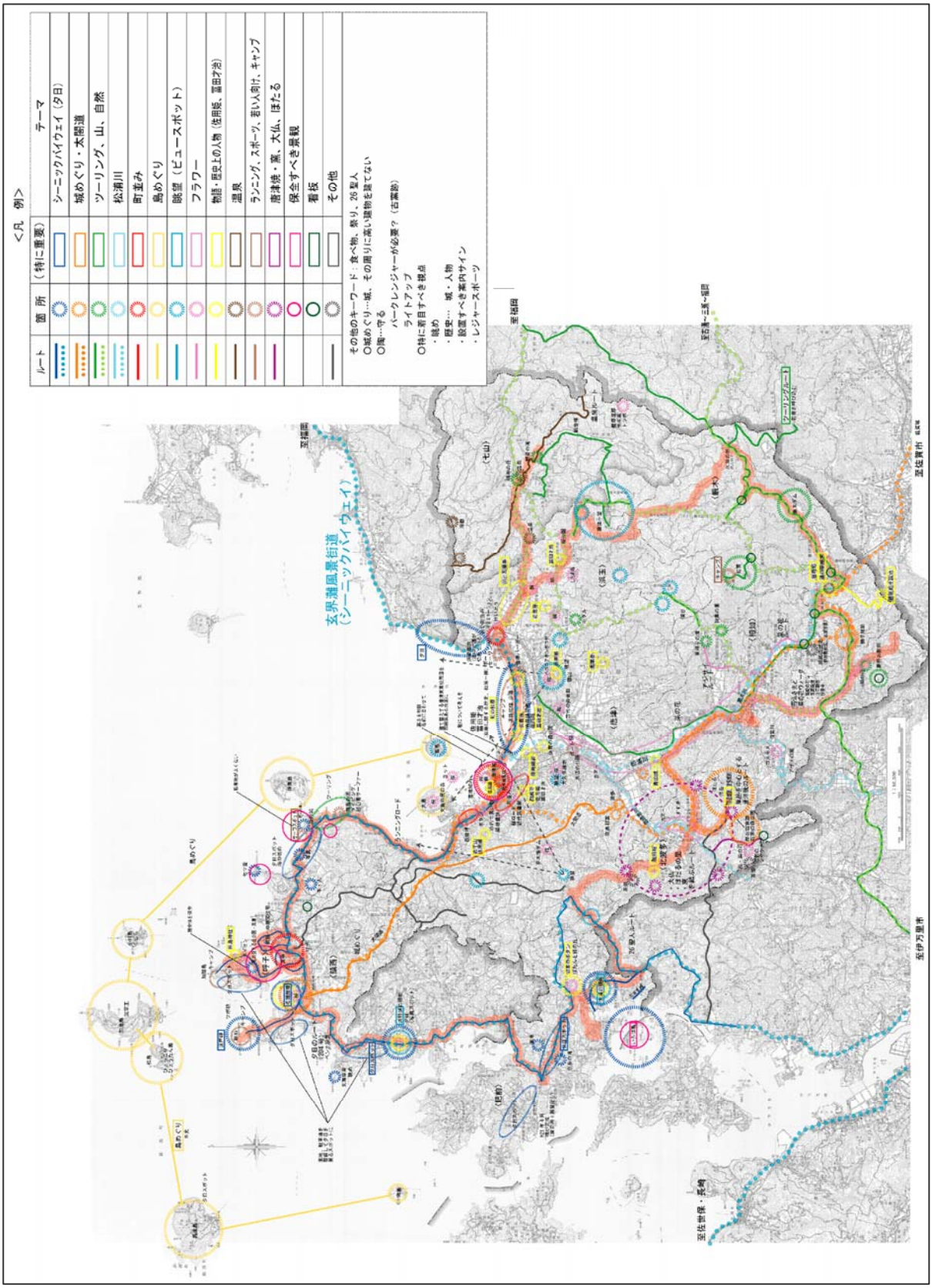


図　景観資源（資料：唐津市の景観に関する基本方針）

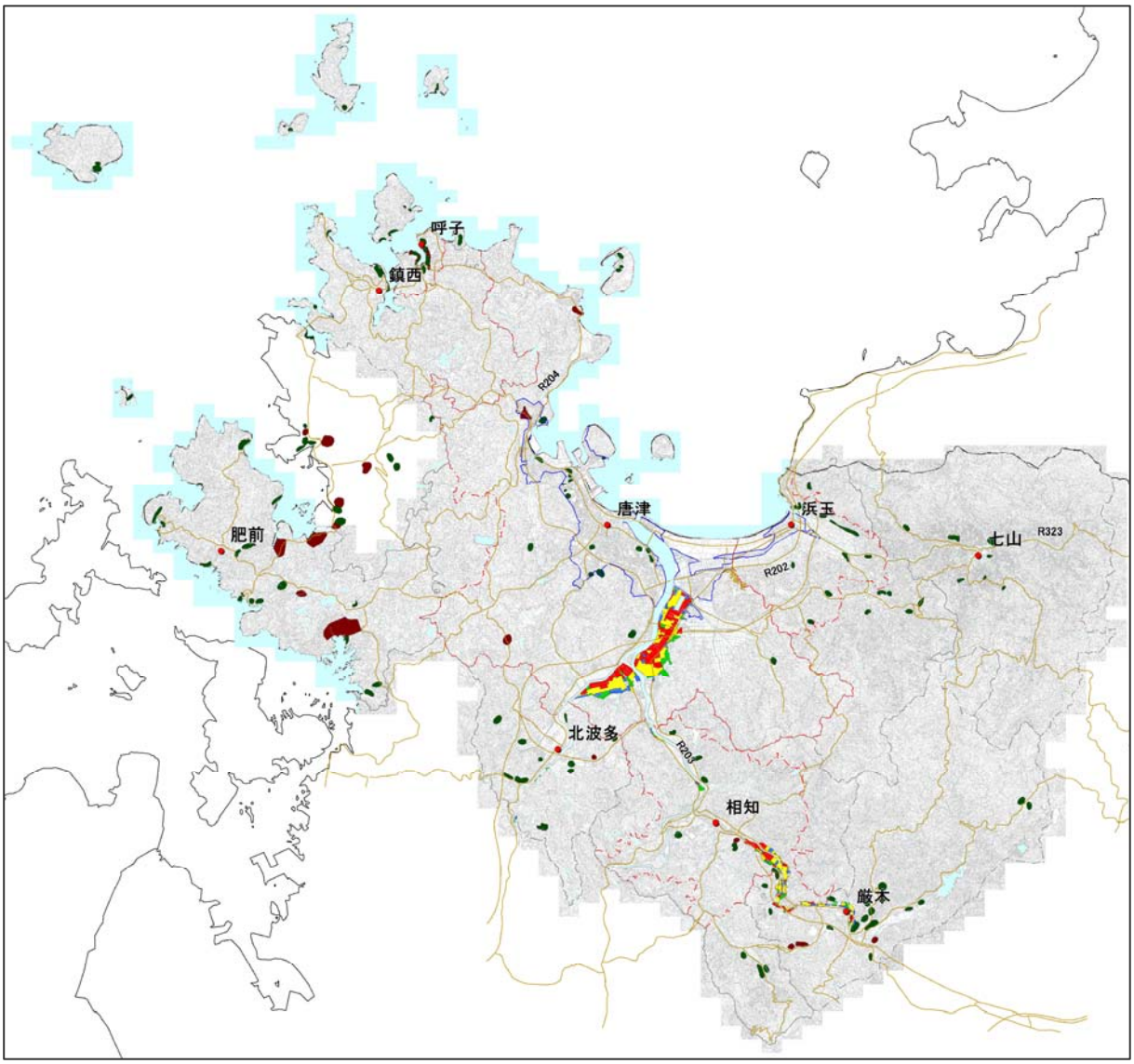


図　急傾斜地、砂防指定地等の危険地域分布図

凡　　例

分　類		表　示
急傾斜地崩壊危険区域		
地すべり指定区域		
松浦川洪水ハザードマップ	浸水深　0.5m未満	
	浸水深　0.5m～1.0m未満	
	浸水深　1.0m～2.0m未満	
	浸水深　2.0m～5.0m未満	
河川・水面		
主要道路		
行政区域界		
都市計画区域界		
用途区域界		
地区界		

第３章　まちづくりの課題

前項までの結果を受けて、まちづくりの課題を整理します。

３－１　広域的位置づけに関して

○西九州の拠点都市としての発展	本市の持つ豊かな自然や歴史・文化などを活用した、広域的な交流を進めることが重要です。そのためにも、現在整備中である西九州自動車道などの高規格幹線道路の整備を促進し、福岡都市圏、佐賀都市圏、およびアジア圏を視野に入れ、西九州の拠点都市として発展していく必要があります。

３－２　都市機能（人口、産業等）に関して

○人口配置への対策	本市では、市街地部、山間部・沿岸部での人口減少・高齢化が顕著である一方、市街地外縁部においては人口増加がみられる状況にあります。このため、公共投資の効率化や環境負荷の軽減等に配慮し、増加人口、世帯分離による増加世帯が市街地部へ適正に配置されるよう、規制・誘導を図る必要があります。
○高齢化、過疎化対策	本市の高齢化率は、県平均を上回る状況となっており、今後も増加傾向が予想されることから、高齢者にやさしい環境整備が必要です。また、山間部や沿岸部の地域では、高齢化とともに過疎化が進行している状況にあり、地域に応じた振興方策を講じる必要があります。
○都市機能の役割分担・連携	利便性の高い自立的なまちづくりや、都市の個性化を目指す上では、地域間の適切な役割分担と連携強化を図る必要があります。特に、通勤・通学や買物等の生活行動の中心地となっている唐津地域を拠点としながら、各地域の生活拠点との連携を強化していく必要があります。
○地域の拠点空間の活力向上	市役所・支所周辺や商店街等を中心とした各地域の市街地では、魅力と活力の停滞が著しく、愛着と誇りのもてる地域の拠点空間として活力向上を図っていく必要があります。特に唐津地域の中心部は、本市全体の活力を牽引していくためにも、「唐津の顔」として、住んで、訪れて魅力のある中心市街地の形成を目指す必要があります。

○都市施設整備と連携した産業振興	本市では、大規模プロジェクトである西九州自動車道が整備中です。今後は、この西九州自動車道のインターチェンジ設置による周辺の適切な土地利用コントロールを行うとともに、有効な土地活用により産業振興へとつなげていく必要があります。
○観光業の振興	本市は、虹の松原をはじめとする玄海国定公園に指定された美しい海岸線や豊かな山系などの恵まれた自然を有しており、また海・山の幸にも恵まれた地域です。今後は、これら資源を活かすとともに、もてなし環境の充実を図る必要があり、こうした取り組みを通して観光客をはじめとした交流人口の増加を目指していく必要があります。

＜市民アンケート調査での主な意見＞

- 将来の唐津市のイメージとして、「働く場が充実したまち」､「高齢者などが住みやすい福祉、医療のまち」、「海、山、川などの自然が美しく豊かなまち」の３項目が上位を占めています。
- 将来の唐津市の商業地施策については、「各地域の日常生活に密着した商店街の維持・再生」という意見が最も多くなっています。
- 将来の唐津市の中心市街地整備については、「商店街整備などのハードだけでなく、地域資源を活かしたソフト事業を組み合わせた活動」が必要であるとの意見が多くなっています。
- 自由意見において、「まいづるデパートの利活用検討が必要」との意見が多くなっています。
- 将来の唐津市の工業地施策については、「雇用機会増大のための新たな工業団地の整備、企業誘致の推進」という意見が最も多くなっています。
- 将来の唐津市の観光については、「地域資源を活かした個性的な交流地域づくり」という意見が多くなっています。

３－３　土地利用に関して

○一体的なまちづくりの推進	本市には３つの都市計画区域が存在しており、一体的なまちづくりを進めるためにも今後都市計画区域のあり方について検討していく必要があります。
○中心市街地の再生	本市の中心地である唐津地域の商店街は、空き地や空き店舗等の低未利用地が目立ち、近年は街なか人口の減少や高齢化とも相まって活力が低下している状況にあります。唐津市全体をけん引する活力ある都市中心拠点となるためにも、「唐津の顔」となる唐津駅から大手口周辺の再整備を検討する必要があります。
○市街地外縁部での土地利用コントロール	本市の土地利用の状況をみると、近年市街地外縁部での開発行為や農地転用が顕著な状況です。 また、西九州自動車道のインターチェンジの設置など周辺の土地利用に大きな影響を与える施設が整備中であることから、それらの地域における土地利用の規制・誘導方策を検討していく必要があります。
○自然と調和する土地利用の推進	本市では、市街地や集落近辺に美しい海岸や豊かな森林等の自然的土地利用が分布しており、現在整備が行われている西九州自動車道や関連する開発等が自然・景観へ悪影響を及ぼさないよう、各種法令との連携のもと、適正に規制・誘導し、貴重な自然環境を維持・保全していく必要があります。

＜市民アンケート調査での意見＞

- 近年の周辺環境の変化について、「身近な緑の減少」、「管理されていない農地、空き地の増加」、「空き家、廃屋の増加」、「農地が広がる地域での散発的な住宅立地の増加」を感じる人が多くなっています。
- 開発･建築制限については、「環境や景観を守るために、現状より強化すべき」という意見が多くなっています。
- 唐津市全体の活性化に向けて重点的に活用・整備すべき場所として「大手口～唐津駅周辺の中心市街地」という意見が最も多くなっています。
- これからの唐津市の住宅地政策については、「防災性･安全性に優れた住環境形成」、「お店や働く場が近くにあること」、「身近な生活基盤（道路、公園、下水道等）の整備」との意見が多くなっています。
- 将来の唐津市の農地、森林については、「積極的に維持・保全すべき」との意見が多くなっています。

３－４　都市施設に関して

○都市間交流、地域間連携を促進する交通網の整備	福岡都市圏、佐賀都市圏との都市間交流促進のため、西九州自動車道、佐賀唐津道路、およびそれらへのアクセス道路の早期整備を進める必要があります。また、地域の個性や資源を活かし、各地域の連携強化を図るためにも、国県市道などの都市内幹線道路の整備および公共交通機関の維持・充実を図る必要があります。
○効率的な都市施設整備	９市町村による合併の中で、各々の地域における公園や下水道等の都市施設の整備水準は大きな偏りが見られます。今後は、各地域の特色や役割を明確にした上で、効率的な都市施設の整備や公共施設の配置およびそれらのネットワーク化による有効活用を図る必要があります。
○高齢化に対応した地域づくり	本市は、今後も高齢化の進行が予想される中、自動車への依存率が高く、周辺地域に住む運転のできない高齢者等にとっては、今後の生活行動に支障がでてくることが予想されます。このため、高齢者等の移動手段である公共交通機関の維持・充実を図るとともに、日常生活に必要な利便施設が身近に備わった地域づくりを進める必要があります。同時に、あらゆる面においてユニバーサルデザインの理念に基づいた地域づくりを進める必要があります。

＜市民アンケート調査での意見＞

- 現在の唐津市の生活環境のうち、「子どもの遊び場や公園の充実度」、「公共交通の利便性」に対する不満が高くなっています。
- これからの唐津市の都市基盤施設施策のうち、道路・交通の整備に関しては、「狭い道路の改善」や「歩道の段差解消、交通安全施設（カーブミラー、街路灯）の充実」など身近な道路施設の整備、公園・緑地の整備については、「地域特性を活かした公園」や「身近な公園、広場」、水環境に関わる施設整備については、「上下水道」の整備や「自然を活かした河川・海岸線の保全・復元・創造」などへの意見が多くなっています。
- 唐津市全体の活性化に向けて重点的に活用・整備すべき場所として、「西九州自動車道、佐賀唐津道路などの高規格幹線道路（インターチェンジ周辺を含む）」との意見が最も多くなっています。

３－５　その他の特徴的な要素に関して

○貴重な自然環境の保全・活用	虹の松原に代表される本市の海岸線一帯に指定されている玄海国定公園や、天山、八幡岳などの山系は、美しい風景や貴重な生態系を支え、本市の大きな魅力となっています。今後は、積極的な保全を図るとともに、市民や訪れる人にとって親しみのある交流空間としての活用も一層進める必要があります。
○歴史・文化を活かしたまちづくり	本市には、唐津焼をはじめとする伝統工芸や、国の重要無形文化財に指定されている唐津くんちの曳山行事など、各地に伝統的で多彩な歴史・文化が息づいています。今後は、個性的で、誇りと愛着の持てるまちを育む意味でも、これらを保全・活用しながらまちづくりを行っていく必要があります。
○防災に強いまちづくり	本市の市街地周辺部や山岳、丘陵地の各所には急傾斜地や地すべり等の危険区域が分布しています。また、松浦川沿いの一部では河川改修が完了していない地域もみられます。 台風や地震等の自然災害から市民の生命と財産を守るためにも、これらの危険地域における災害対策を進める必要があります。
○まちづくりへの参画と協働の促進	近年、全国的に社会や地域のために活動したいという人々が増え、市内でもまちづくり団体などの地域主体の様々な活動がみられるようになっています。 まちづくりに関する計画は、その全てを行政が担うことは難しく、特に、地域の個性を活かした魅力的なまちを目指す上では、地域住民が主体となって自分たちのまちづくりを考え、実行していく必要があります。

＜市民アンケート調査での意見＞

- 希望する将来の唐津市のイメージとして「山、海、川などの自然が美しく豊かなまち」という意見が多くなっています。
- 将来の街並み・景観については、「自然景観や文化遺産、まつりなどの地域資源を活かした景観づくり」が求められています。
- 将来の唐津市の防災については、「災害に強い都市基盤の整備」、「治水・治山の防災対策強化」、「避難地、避難路の確保」が求められています。